

あわら温泉街再整備基本計画

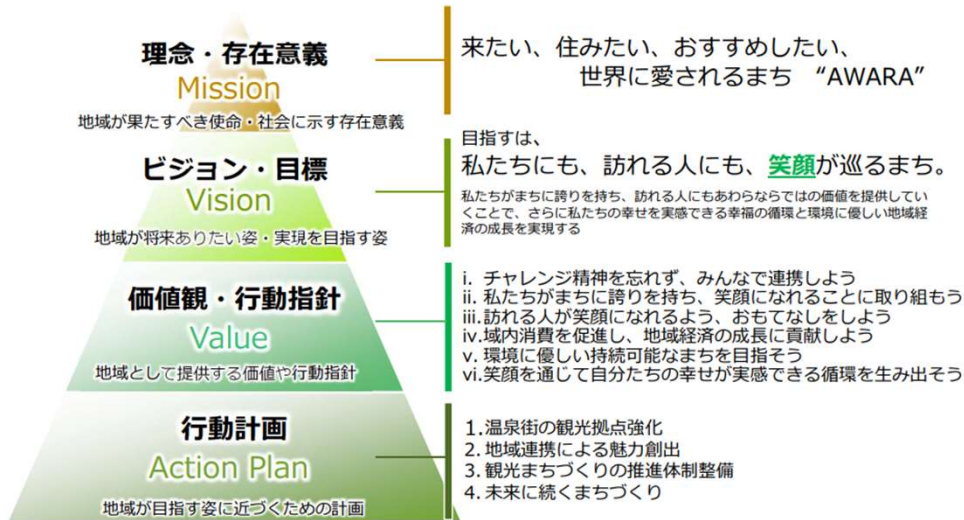
1. 本計画の位置づけ

(1) あわら市観光まちづくりビジョン（2024年3月）に基づくエリア戦略

観光まちづくりビジョンの実現に向けて

あわら市では、北陸新幹線芦原温泉駅開業を転機とし、今後は全国、世界から注目されるような魅力ある観光地を目指して、『あわら市観光まちづくりビジョン』（2024年3月）を策定した。あわら市と地域が一体となって、官民連携でまちづくりを進め、持続可能な地域を目指すための将来ビジョンとして、「来たい、住みたい、おすすめてほしい、世界に愛されるまち“AWARA”」を理念に、まずは私たちがまちに誇りを持ち、訪れる人にもあわらならではの価値を提供し、満足していただくこと。そして、その満足が広がることで、さらに私たち自身の幸せを実感できる「幸福の循環」と環境に優しい地域経済の成長を実現することを目指すこととしている。

本計画は、観光まちづくりビジョンを具現化するためのあわら温泉におけるエリア戦略と位置づけ、あわら温泉がビジョンの実現に向けて取り組むための戦略を策定することを目指す。



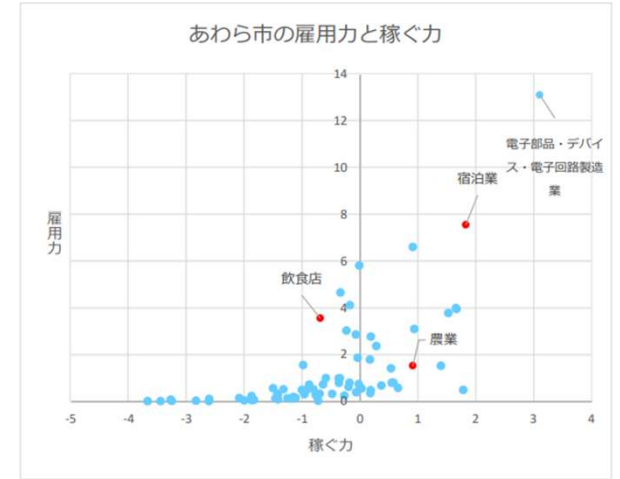
笑顔につながるアクションプラン ～エリア全体の連携で目指す～



(2) ビジョン実現に向けたあわら温泉の役割

循環のハブとしてのあわら温泉

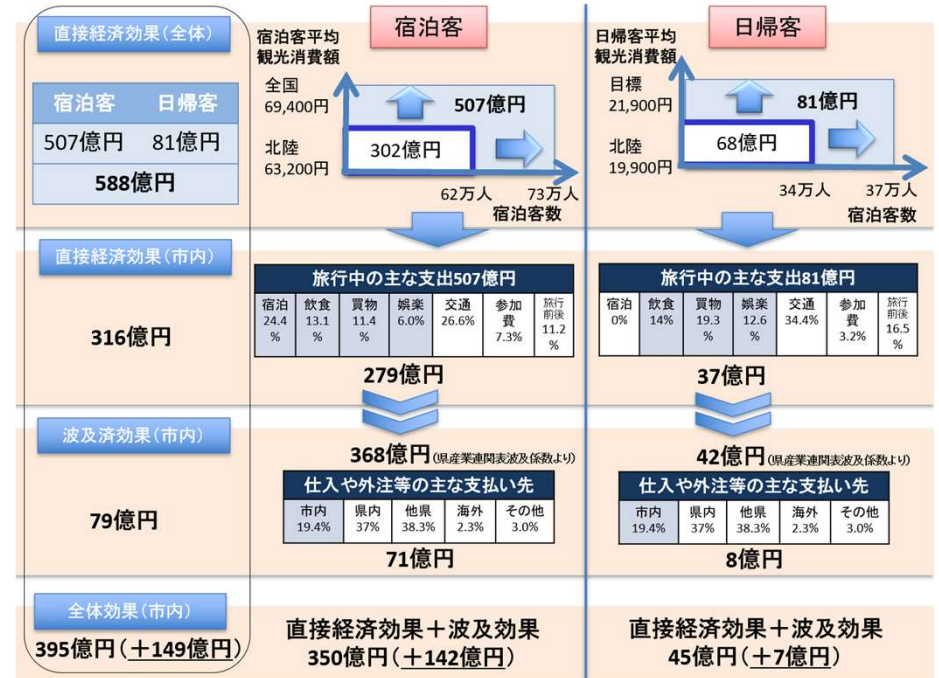
あわら市の観光まちづくりの中でも、中核となるのがあわら温泉である。あわら温泉は福井県最大の温泉地として宿泊業が集積し、多くの雇用を支えるとともに外貨を稼ぐ力を持っている。さらに、宿泊に伴い滞在時間を延ばすことで温泉街及び市内の関連産業への消費を促したり、旅館での食事提供をはじめとするサービス提供に伴う仕入れ・調達を生み出したりすることで、まさにビジョンの目指す循環のハブとなる産業とも言える。



出所：総務省統計局「地域の産業・雇用創造チャート」

経済波及効果

あわら市観光振興戦略で掲げるあわら温泉の宿泊客数・日帰り客数と観光消費額の目標達成した場合の市内における経済波及効果は、年間約395億円が見込まれる。（令和6年現在より約149億円増加）



1. 本計画の位置づけ

(2) ビジョン実現に向けたあわら温泉の役割

市民も誇れる滞在型温泉地に向けて

あわら温泉の目指す活性化は、単に観光需要を受け止めて消費促進を目指すものではない。ビジョンに掲げる「世界に愛されるまち“AWARA”」を実現していくには、「愛される」という最上級の関わり方をもつことができるエリアを目指す必要がある。このためには、この場所ならではの文化や産業に根差した魅力を、住民や働き手など生活者自身が楽しみ、近隣都市の住民にとっても日常に取り入れる場所となる「市民も誇れる滞在型温泉地」となることが重要である。そうした場所こそ、市民と来街者の豊かな交流が生まれ、それ自体が地域の価値を生み出すこととなる。

現在はまだ年間1万人に満たないインバウンド需要を取り込む上でも、こうした地域ならではの魅力が不可欠であり、そのための第一歩として、自分たちが誇れる観光地を創造していくことが重要である。



(3) ビジョン推進を通じて目指すもの

取組みを通じて目指す幸福度への貢献

福井県は、一般財団法人日本総合研究所編「全47都道府県幸福度ランキング」で12年連続をはじめ、さまざまな幸福度や豊かさのランキングにて日本一を獲得している。あわら市観光まちづくりビジョンにおいても、理念・存在意義(来たい、住みたい、おすすめしたい、世界に愛されるまち“AWARA”)やビジョン・目標(私たちに、訪れる人にも、笑顔が巡るまち)において、観光だけの視点でなく、幅広い幸福度に貢献していく視点が組み込まれている。

各ランキング等における幸福度は、様々な要素が総合的に評価されるものであるが、福井県観光DX推進マーケティングデータコンソーシアムが実施したアンケート(下図)によれば、福井を自信をもっておすすめできる人ほど、また、観光客との接点が多い人ほど、幸福度が高いことが示されている。つまり、観光関連事業に従事したり、まちで来街者におすすめをしたり、何らかの形で観光に関わることは、幸福度に対する前向きな影響を与えていると考えられる。

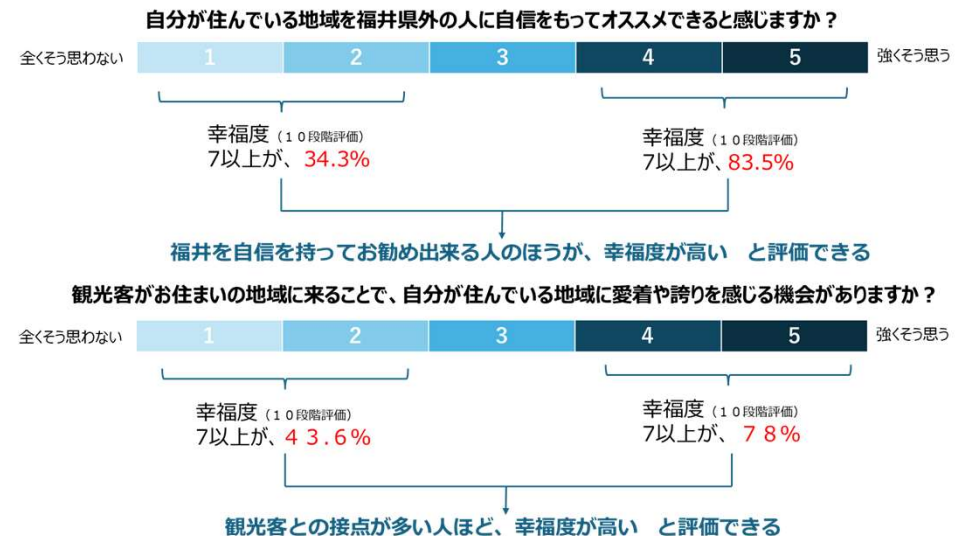
この計画においては、あわら温泉が観光地としての魅力を高めていくことが重要であるが、これを行政、民間、そして地域を含めた幅広い主体で取り組むことを通じて、以下の動きを生み出すことを最終的な目標に据える。

本計画の実行を通じて目指す目標

観光の魅力を磨き、多様な関わりを生み出すことを通じて、幸福度日本一の実感に貢献する

福井県の観光による住民幸福度に関するアンケートより

(2024年1月;実施主体:福井県観光DX推進マーケティングデータコンソーシアム)



2. あわら温泉を核としたビジョンの推進

(1) 福井県及びあわら市におけるあわら温泉の位置づけ

県内随一の「泊」の拠点があわら温泉の第一歩

あわら温泉は、福井平野の中心部に位置し、永平寺や一乗谷朝倉氏遺跡、吉崎御坊跡、東尋坊、三国湊などの観光資源の結節点となっている。このあわら温泉が、何度も行き来する滞在拠点としての魅力を高めることにより、市内・県内の魅力的な場所との連動が強化され、波及効果が期待できる。また、各エリアが一体で価値を提案することで地域全体の認知度やブランド力が高まる相乗効果を生み出すことが可能となる。

このため、ビジョンの実現に向けて第一歩として、各エリアと連携した連泊できる温泉地を目指し、「泊」の拠点であるあわら温泉の魅力を高めるための取組みを進めることが重要である。

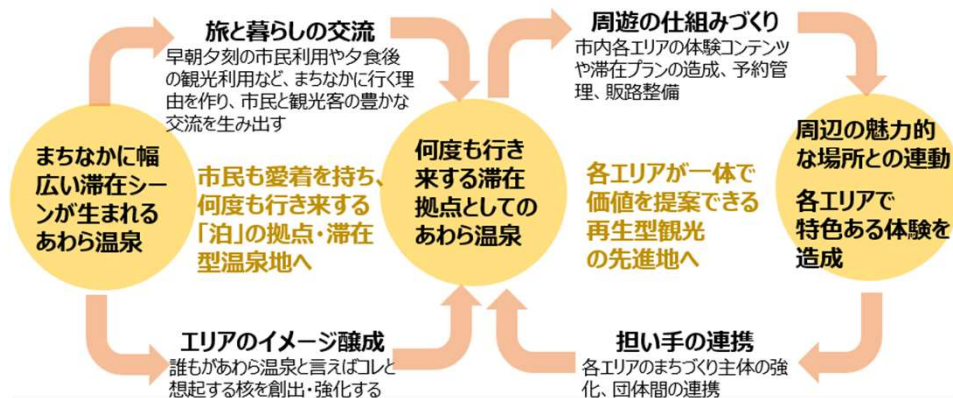


何度も行き来する滞在拠点

『あわら市観光まちづくりビジョン』においても、行動計画（Action Plan）として、1. 温泉街の観光拠点強化、2. 地域連携による魅力創出、3. 観光まちづくりの推進体制整備を掲げている。

温泉街を観光拠点として強化していくには、まちなかに幅広い滞在シーンを生み出す必要がある。まちなかに行く理由を作り旅と暮らしの交流を創出するとともに、誰もがあわら温泉と結びつけて想起するエリアイメージを醸成することが重要である。観光利用だけでなく、市民も愛着を持つ滞在の場となることで、何度も行き来する拠点としての魅力を強化することができる。その上で、周辺の魅力的な場所との連動を生み出すため、各エリアでの魅力造成と周遊の仕組みづくりに結び付け、各エリアが一体で価値提案ができる枠組みを整備していくために、その担い手となる観光まちづくりの推進体制を構築・強化していく。

こうした取組みを通じ、あわら温泉が何度も行き来する滞在の場として市民が愛着を感じ、福井平野を中心に広がる観光資源の結節点として拠点性を持つ宿泊地となることを目指す。



(2) あわら温泉に根差した価値の創出

あわら温泉に固有の価値を基盤に据える

地域の魅力造成に当たっては、地域固有の価値を的確に把握し、その特性を活かして磨き上げていくことが重要である。こうした地域ならではの魅力は、長い時間をかけて培われてきた資源や風土、生活文化に根ざすものであり、地域の歴史的経緯を踏まえて理解する必要がある。

かつて湿地帯や田園が広がる土地であったあわら温泉は、明治16年（1883年）、地域の農民が水田に井戸を掘ったところ、温泉が湧き出したのがその始まりとされる。翌年には早くも複数の温泉宿が開業し、湯治客の受け入れが始まり、地域の温泉地としての歩みが始まった。温泉地は舟津・田中々・二面という三つの地区から成り立ち、開湯当初はそれぞれが「舟津温泉場」「田中々温泉場」「二面温泉場」として機能していた。各地区にはそれぞれ「舟津温泉区薬師堂」「田中温泉薬師神社」「二面温泉薬師堂」という温泉守護の施設があり、これら三つを総して「三薬師」と称する伝統がある。こうした三地区それぞれの歴史的な積み重ねの上に、現在のあわら温泉という統合された温泉街の基盤が築かれた。

明治45年（1912年）に旧国鉄三国線が開通すると、交通の便が飛躍的に向上し、宿泊者や観光客の流入が加速。発展とともに幾度かの災害（昭和23年の福井地震、昭和31年の芦原大火など）に見舞われながらも再生を重ねてきた。

つまり、あわら温泉は、農地の共同管理から始まった人々の協働の営みに端を発し、温泉の湧出を契機として発展してきた温泉地である。その歩みの中で、「農地からの結集」を基軸としつつ、「温泉文化」や「庭園文化」、さらには地域の人々が力を持ち寄り新たな価値を創造してきた独自の気質が育まれてきた。

今後の魅力創出においても、これらの文化的基盤を尊重し、地域に根差した価値を再解釈しながら、持続的な観光地としての魅力向上を図ることが求められる。

根差す基軸

農地からの創出と結集

明治16年に湯が噴出したことが起源。ここに、**3つのエリアからの開拓精神が結集**したと、開湯から3エリアと来訪者の**交流を内包**していることが根幹の価値観。また、沼地に開拓した結果として、**周囲に豊かな田園が存在**することも内在する資源



資源

場所に固有の本来的な価値に根差すことが「あわら温泉らしさ」を醸成していく。温泉地の成り立ちから考えても、周辺エリアの活力を持ち寄って共有する形もあわら温泉らしい



温泉文化

あわら温泉には74本の源泉があり、その泉質や効能が多彩に存在する。また、この源泉を集中管理するのではなく、それぞれの旅館等が管理していることも特徴的



庭園文化

湯の湧出を契機に開拓した土地の中でも、来訪者が四季の魅力を楽しむ庭園を造りこむなど、限られた環境の中でも創意工夫によりおもてなしを実現する精神性を有する

無ければ持ち寄る

持ち寄って創造

開湯から短期間に、異なるエリアからの開拓に並行して魅力が揃っていく中で、豊富な食資源をはじめ無いものは持ち寄って場所の価値に転換することも土地に根差した文化を育む要素

2. あわら温泉を核としたビジョンの推進

(3) ビジョンを推進していくためのアクションプラン

あわら市の観光まちづくりビジョンに掲げるアクションプランの4本の柱に沿って、あわら湯のまちみらいプロジェクト（あわら温泉街再整備計画）の中で、重点的に進めていくアクションプラン

観光まちづくりビジョン アクションプランの柱	進めている取り組み（官民・～R7年度）	今後進める取り組み（官民・R8年度～）
1. 温泉街の観光拠点強化	<ul style="list-style-type: none"> 基本構想決定による整備方針の確立 （夜間景観、滞在性、回遊性向上に向けた社会実験実施と検証、推進体制の構築による整備方針の決定） 	<ul style="list-style-type: none"> 湯のまち広場・周辺エリアの整備 温泉街のまち歩き動線の整備
2. 地域連携による魅力創出	<ul style="list-style-type: none"> 空き物件の活用（社会実験実施） 飲食店の組織化検討 市民の観光まちづくり参画促進（トークイベントなどの実施） 地域住民や旅館、飲食店との連携（よるもうで回遊企画） 	<ul style="list-style-type: none"> 空き物件の活用（飲食店など） 飲食店の組織設立 市民の観光まちづくり参画促進（継続的な関わりしらの確保、事業者発掘） 飲食店との連携推進（泊食分離など） 農業との連携推進 若い世代との連携推進 周辺市町との広域連携 既存企画の磨き上げ 地域資源を活かした観光誘客
3. 観光まちづくりの推進体制整備	<ul style="list-style-type: none"> 旅館のマーケティングデータの分析と公開 観光まちづくり推進体制の構築（デザイン会議・推進会議） エリアマネジメント組織設立に向けた現状整理 	<ul style="list-style-type: none"> エリア全体での指標設定、検証、更新（エリアでのデータ活用） エリアマネジメント組織設立（組織・人材・財源検討）
4. 未来に続くまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 旅館宿泊者共同送迎社会実験実施 宿泊業における域内循環率を調査 	<ul style="list-style-type: none"> 旅館宿泊者の送迎の在り方について検討 温泉街の働き手の住環境整備（移住促進） 域内循環率向上を促進（地消地産など） 源泉74本のブランディング ゼロカーボンシティの推進（EVバスの導入など）

3. 温泉街の現状

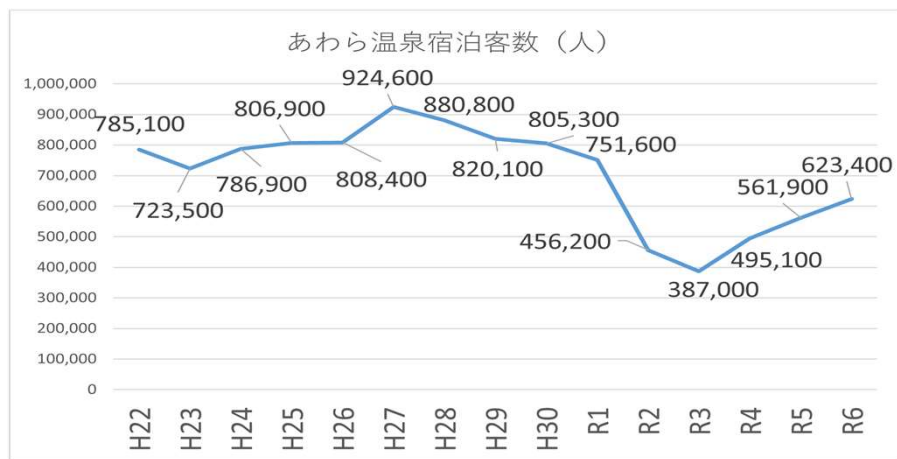
(1) 宿泊者推移や市民利用状況

宿泊者数や日帰り利用数の推移と観光まちづくりの推進

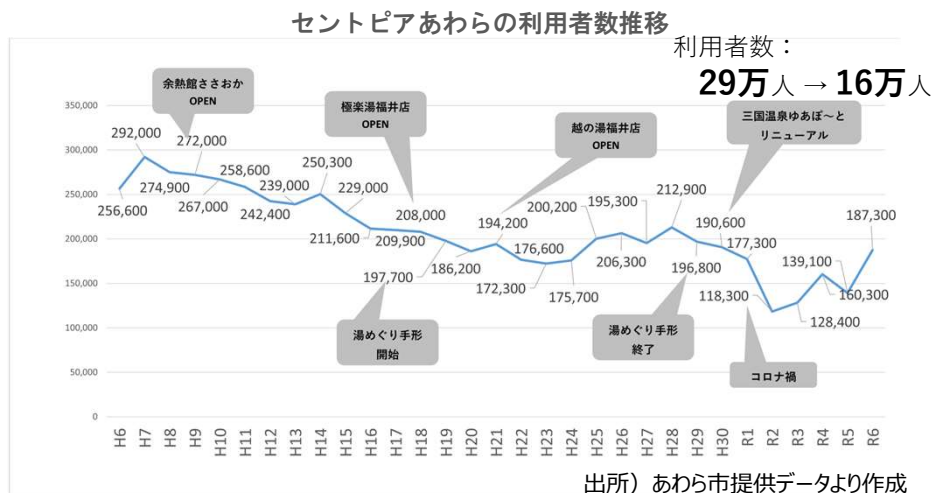
2010年以降のあわら温泉の宿泊客数（あわら市観光白書より）を見ると、2010年代前半に増加し、2015年には年間90万人を超える宿泊者数を誇ったが、その後徐々に減少し、80万人前後を推移する形となってきた。2020年の新型コロナウイルス感染症の影響により、一時的に大きな落ち込みを経験したものの、徐々に回復基調にあると言える。

2024年のあわら温泉の宿泊客は623,400人で、対前年増減率10.9%増となった。特に関東地方の増加が顕著（対前年比80.9%増）であり、北陸新幹線芦原温泉駅開業による効果があったと見られる。

一方で、セントピアあわらの利用者数は、この30年で4割強減少するなど、温泉街自体への来訪者数は必ずしも堅調とはいえない。こうした中、『令和6年あわら市観光白書』（2025年5月）においては、「単に観光客を増加させるだけではなく、サービスの向上により観光客一人あたりの消費単価の増加や市内における消費機会の創出を目指す」必要があるとし、あわら温泉街のまち歩きを促す「コンテンツのさらなる磨き上げを行うとともに、あわら温泉屋台村『湯けむり横丁』や周辺の飲食店の利用を促進し、まち全体が活性化するような観光まちづくりを推進する」としている。



出所) あわら市提供データより作成



出所) あわら市提供データより作成

(2) 温泉街の現状

街中にはほとんど人がいない。旅館や店舗は建物の中に完結する形で、まちに対して開いた機能に乏しく、街への染み出しが感じられない。ベンチや歩道など一部を除き、街を歩くための機能が足りていない。一方で、イベントなどがあれば多くの人で街が賑わうので、日常的に街に人を回遊、滞留させることが課題。



駅前周辺は主に車のためのスペースとなっており、人の居場所がほとんどない。



駅から広場を眺めた時、手前の高木が広場の存在を感じづらくしている。横丁脇の駐車場も駅前が一番良い場所にある必要があるか検討が必要。



芦湯はとても良い施設だが、前面の芝生との関連性が弱い。この部分が開けるとさらに一体感が生まれると感じる。



エリアとエリアを繋ぐ交点が空き地だと街が繋がりがづらい。こういった場所の活用を検討すべき。



セントピアあわらは地域に向けてひらけた「総湯」としての役割を担えるように感じる。広場は整備されているが、セントピアあわらや他の主体による広場の活用は乏しい。



メインストリートに面する駐車場は、例えばまちかどのイベントスペースや緑地、ベンチなどが置かれるまちかど滞留空間などができると良い。

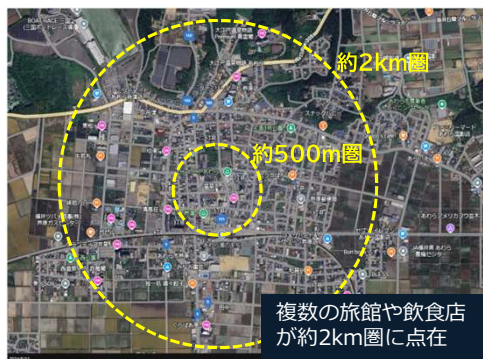
3. 温泉街の現状

(3) 民間投資を誘発する公共投資を見据えた「重点エリア」の考え方

まずは湯のまち広場等を含む500m圏を重点エリアに

あわら温泉街は、旅館や飲食店などが約2km圏に点在する形で拡大し、エリアとしての認知は旅館の庭園や食事など施設内の魅力に頼っているのが現状。旅行トレンドが変容する中、北陸新幹線の延伸により首都圏やインバウンドを含む新たな顧客に訴求していく上では、滞在できる温泉街の形成、エリアを象徴するイメージを醸成することが必要である。

このためには、駅からの入口にあり集客施設となっている芦湯や湯けむり横丁を有する「あわら温泉湯のまち広場」、歴史性の象徴ともなり得る「三葉師」、温泉地の総湯である「セントピアあわら」を核となる拠点と位置づけ、これらを回遊できる500m圏を改めて温泉街のイメージを醸成する重点エリアと設定する。本検討においては、この重点エリアが、温泉街全体が活力を持つ源泉となるよう、公民での投資を集中させる上で必要な戦略を検討する。



空間再編に向けた6つのポイント

POINT01

湯のまち広場の施設リノベーションなどを行い、市民や観光客が街に出るきっかけとなる目的性を高める。広場全体のランドスケープを見直し、あわら温泉を代表する風景を生み出す。湯〜わくDori〜湯のまち広場〜駅の交点となる箇所には、アイスポットとなる回遊拠点を検討する。

POINT02

地域に残る唯一の総湯であり、市民の温泉文化醸成の場であるセントピアあわらを回遊の拠点と位置づけ、施設の在り方や街路、サインを含めた回遊性向上のための方針を検討する。

POINT03

3つの薬師を地域の資源と捉え、舟津温泉区薬師堂外構のアップデートと薬師堂に至る動線の計画を行う。3つの薬師の外部空間は地域の人たちが集まる場であるとともに、あわら温泉の歴史など訪れる人たちへの「語り部」となる機能の実証を検討する。

POINT04

あわら湯のまち駅のロータリーを改修し、まちと駅の連続感を補強する。また、新幹線駅からまちへやってくる動線上にあるアメリカカフの並木を地域の「絵になる風景」として磨き上げる。

POINT05

県道芦原湯町停車場線を含む歩行者ネットワークを設定の上で高品質化を目指す。具体的には、歩道の拡幅、沿道のあり方、舗装の素材、色などを総合的に検討を行い、湯のまち広場と温泉街をつなぎ、まち歩きを促す空間を形成する。

POINT06

まちなか全体を回遊し、街の魅力を磨き上げる夜間景観を創出する

(4) 温泉街の空間再編に向けたポイント



4. あわら湯のまち 未来プロジェクト

(1) あわら湯のまち未来プロジェクトの立上げ

「湯のまち」としての将来像

あわら温泉街が目指す将来に向けては、あわら温泉がその歩みの中で基軸としてきた「農地からの結集」、また育んできた「温泉文化」や「庭園文化」、さらには地域の人々が力を持ち寄り新たな価値を創造してきた独自の気質を大切にしながら、市民も誇れる滞在型温泉地を目指して取り組んでいくことが重要である。

温泉地の中心に位置する広場が掲げる「湯のまち」として、日常の小さな変化と愛着が、やがてまちの営みにつながっていくことを目指した取組みとして、「あわら湯のまち未来プロジェクト」を立ち上げ、始動する。

プロジェクトロゴのデザインとコンセプト



あわら
湯のまち
未来プロジェクト

Awara Yunomachi
Future Vision Project

01 | ゆ × あわらの“a”

温泉を表す「ゆ」の文字と、あわらの頭文字「a」を掛け合わせた温泉街のプロジェクトらしい湯けむりを想起させる意匠。



02 | 回遊と想像

ぐるぐると巡る線で、あわら湯のまちを回遊している様を表す。想像フキダシのようなシルエットで、未来を考える様を表す。



03 | 視認性と伝統性

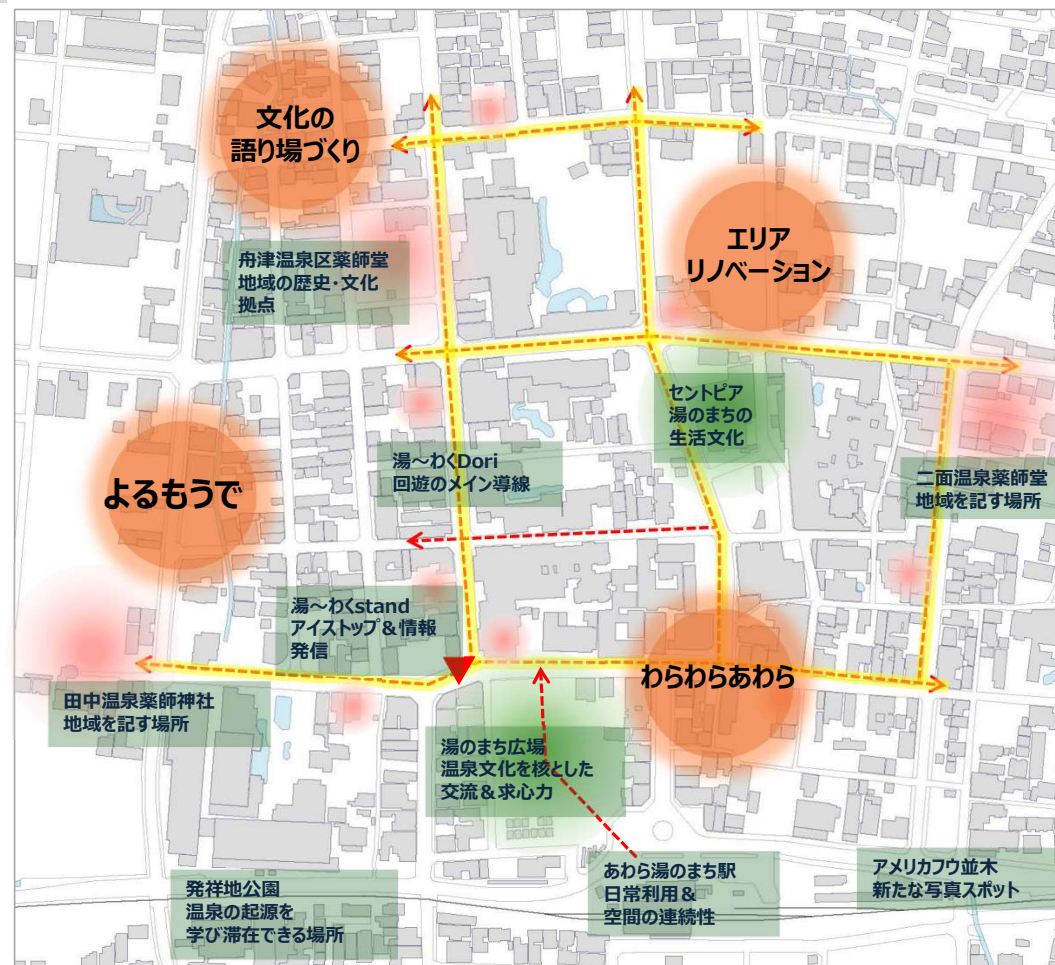
多様な場面で視認性を確保できる、ローコントラストな書体を選定。楷書体の要素を色濃く残すオールドスタイルの明朝体で、伝統的な印象を演出。「あわら湯のまち」に最適な書体のひとつ。

logo type
霞青藍
かすみせいらん

あわら湯のまち未来プロジェクト

暮らす人も旅の人も、何度も訪れる、何度も行き来する、何度も思い出す、何度も味わえる。。。そんな未来の「あわら湯のまち」へ。今はまだ旅館街として元気なあわら温泉が、これまで以上に、この場所だけの日常との出会いと交流が生まれる場所になるように。

次の100年に向けた活動は、日常の小さな変化と愛着から生まれ、やがてまちの営みへとつながることを信じて、未来プロジェクトを始動しよう。



4. あわら湯のまち 未来プロジェクト

(2) 湯のまちに必要な要素と実現戦略

あわら温泉が、生活地として日常の息遣いが感じられる場所となる、観光地として国内外に認知され、上質なイメージを形成する。県内の拠点として歴史・文化が感じられる場となることを目指し、あわら湯のまち未来プロジェクトを構成する取り組みの柱を設定する。

I

日常の息遣いが感じられるシーンを生み出し、豊かな交流を創出する

人々の多様な過ごし方が際立つ新・湯のまち広場へ

わらわら あわら

一つ一つの施設で完結しがちな温泉街。旅館はお籠もり、飲食店には外席はなく、足湯も建物の中、外湯も外から見えない。だからみんなの生き活きとした姿がまちで見えない。みんなの息遣いが聞こえてこない。
もしも湯のまちに、みんなの息遣いが感じられたら、旅はもっと面白くなる。旅との交流が、市民にも日常の豊かさを感じられる観光のきっかけになる。
まちの人も、旅の人も「わらわら」と外に出てみよう。それが温泉街の雰囲気をつくり、楽しい予感をつくる。湯のまち広場から、わらわらしていこう。

新たなにぎわい機能・まち機能の挿入

エリアリノベーションまちづくり

わらわらは湯のまち広場だけじゃない。みんな少しずつはみ出したり、建物には縁側がついていたり、カフェや飲食店が外に席を出していたり、旅館に誰でも入れるスペースがあったり、足湯が外にも流れていたり、横丁からも音楽が聞こえてきたり、薬師も夜でも灯りが溢れ出していたり。
もしも湯のまちにあるお店や施設、住宅が、少しずつ姿を変えていくことができれば、まちの人も旅の人も、ちょっとした時間にそれを味わう。ご飯の前後、仕事帰り、友達との待ち合わせ、生活の合間に温泉街の息遣いがプラスされる。そんな動きを点から面に広げていこう。

II

つい写真が撮りたくなる風景を生み出し、エリアイメージを醸成する

絵になる風景を巡る

あわら湯のまち三薬師 よるもうで

温泉旅の醍醐味は何といっても夕食と温泉。これからのあわら温泉では、ご馳走やお風呂上がりの楽しみごとに、ありがたい三薬師をめぐる楽しみが加わる。提灯を手に、湯種の異なる手湯も楽しみながら幻想的にライトアップされた薬師を巡れば、思い出に残る夜になるだろう。
わらわらあわらの広場のあかりや芦湯、新たにリノベーションされたカフェやギャラリーの漏れあかりもあいまって、そぞろ歩きも楽しめる「絵になる夜景のある温泉街」が未来の「あわら湯のまち」。せっかくあわらに泊まるなら、湯のまちのよるもうでを楽しまないともったいない。

エリアのイメージを形成する景観づくり

絵になる夜間風景の創出

この写真を見ればどこかわかる、この場所に行ったらここで写真を撮って帰りたい。観光地としての認知を高めていくには、そんな景観が不可欠。
あわら温泉は、旅館のイメージが強い。でもそれだけに頼ってはいけず、エリア全体のイメージは形作っていかない。まちに、ついつい写真を撮りたくなる風景を生み出し、「あわら温泉と言えばここだね」と誰もが思い浮かべる場所を作る。そして、それをみんなで発信していくことで徐々に温泉街全体のイメージが醸成されていく。そのために、まずは絵になる夜間景観を創出していこう。アメリカフウ並木をはじめ、石切場跡・湖畔・森林など、あわら市にしかない夜景を整えれば、連泊しながら楽しむ旅を支える旅館は、既にこのまちに整っている。

III

あわら温泉を象徴する歴史・文化を体現する場を生み出し、福井が誇る温泉地となる

文化の語り場づくり

舟津温泉区薬師堂 湯のまち文化 かわらばん回廊

魅力的な旅館が立ち並ぶあわら温泉は福井県最大の温泉地。あわら温泉を拠点に、何度も行き来しながら福井平野を味わい尽くす過ごし方は、豊かな地域との出会いを生み出す。
もしもこの場所に、福井平野の地域文脈を伝えられる文化拠点があれば、福井平野を巡る旅の起点となり、あわら温泉は福井の宝物になる。3つの温泉区がそれぞれに社を建て、医薬を司る神仏を祀り、大切に管理をしている「歴史・地域を記す場所」である薬師、中でも、前面に広場空間を有する舟津温泉区薬師堂から、福井平野の文化を語る場づくりを始めていこう。

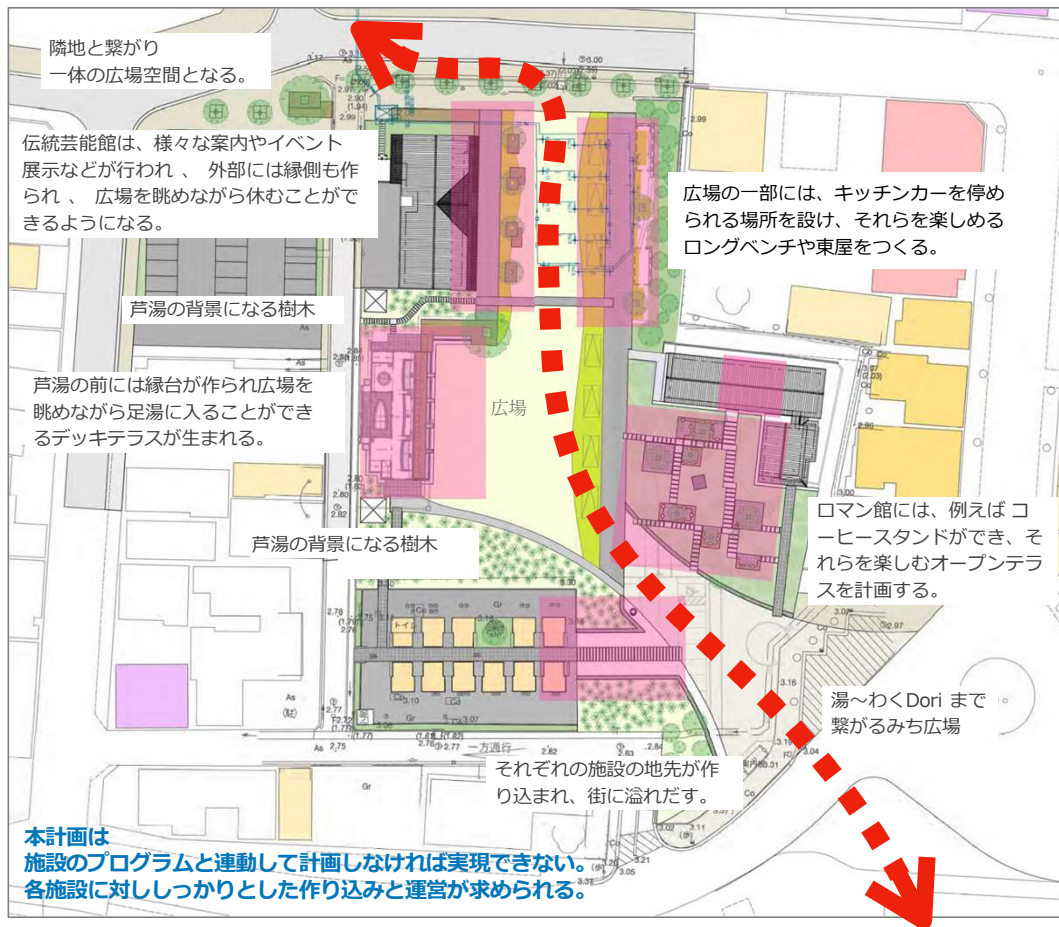
温泉を起点にした暮らしのアップデート

セントピアあわら 湯のまち文化の醸成

湯のまち広場や芦湯は、観光客にとっては温泉文化の入口。暮らす人、働く人が日常的に使い、暮らしのリズムに取り込んでいる総湯は、より深く、「湯のまち暮らし」に触れることができる場。
せっかくの湯のまちの中心。親子連れや働き手、あわら市及び近隣市の方々にとっても日常使いできる小さな賢沢・憩いの場になってほしい。ちょっとしたドリンク、湯上りの読書など温泉の楽しみを広げてくれるサービスも備えて、市民の楽しみ自体が温泉文化を深め、来街者にとっては湯のまち文化との触れあいの場となるよう、施設も使い方もアップデートしていこう。

わらわら あわら ～人々の多様な過ごし方が際立つ新・湯のまち広場～

概要	・湯のまち広場全体の構成を見直し、各所の地先に滞在魅力（わらわら）を創出する
ターゲット	・すべての来街者 宿泊観光客のみならず、日帰りで遊びに来る近隣からの来街者も狙う
整備内容	<ul style="list-style-type: none"> ・広場全域の平面構成の見直し ・芦湯に外部足湯を設ける ・魅力的な樹木と様々な緑の配置。樹木+芦湯は夜景も魅せ場となる。 ・ロマン館前：コーヒースタンド+外部テラス席 ・伝統芸能館：豊かな緑と座れるスペース ・北側広場：キッチンカースペース+ロングベンチ+東屋+間接照明 湯〜わくDori側からのスタンドと一体的な景観魅力創出 ・南側広場：湯のまち駅ロータリーから見通せる「みち広場」、大行灯で誘導。



概要	・三薬師をライトアップし、夜間に回遊してもらうことを 名物コンテンツ として造成
ターゲット	・食事後の宿泊観光客 所要時間30分～1時間程度
来街者の楽しみ方	<ul style="list-style-type: none"> ・夜景を眺める ・夜景で撮影 ・手持ち提灯を持った散歩 ・シールや御朱印を集める ・手湯を巡る、温泉化粧水をもらう、温泉たまごをつくる ・旅館や飲食店、周辺施設等との連携コンテンツ etc
整備内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ライトアップ照明整備 三薬師共通 ・手湯の設置（3か所 配湯でも可） 三薬師共通 ・湯～わくDori 照明グレア改善 ・田中温泉薬師神社（隣接する公園の照明設置・ファニチャー整備） ・舟津温泉区薬師堂（文化回廊整備） ・二面温泉薬師堂（ファニチャー整備） ・照明整備（提灯通り/ 行灯通り/その他照明の電球色化・・・全域）



◆温泉観光地に『絵になる夜景』が必要な理由

1. 観光客の満足度に大きく貢献する。宿泊前後にまちへと回遊する動機となる。
2. 目的地選択のきっかけとなるコンテンツ
3. 地域を支える事業者・住民にとって誇りと愛着を持つ重要な要素

概要

- ・あわら市を来訪する動機となる「**絶景コンテンツ**」を造成
- A) 既存の景観資源の磨き上げ B) 新たな整備計画を夜景資源化

整備企画候補

- ①**アメリカフウ並木のライトアップ（常設）**
264本の並木は、全国区の並木絶景の仲間入りが可能
- ②**新・湯のまち広場に惹きつける夜景を創出（常設）**
新たな広場は昼も夜も魅力的な場所として造成
- ③**宮谷石切場跡のライトアップ（イベント）**
鍾乳洞のライトアップは各地で誘客のコンテンツ
- ④**北潟湖や金津創作の森などの自然景観を利用した季節イベント（ライトアップ）**



神宮外苑のイチヨウ並木ライトアップ

◆三薬師ライトアップとまちの夜間景観改修のイメージ



◆アメリカフウ並木のライトアップ

社会実験時の様子(2025年度)



264本のうちの34本をみのライトアップにも関わらず、圧倒的な存在感のあったアメリカフウ並木
絵になる夜間景観を実現する可能性や周辺環境への影響等の検証を重ねるため、今後、演出区間をより長く延ばす形で社会実験を継続していく

◆新・湯のまち広場



◆あかりのコンテンツ例



有料コンテンツ化が可能な石切場ライトアップ

温泉街に「文化体験」ができる場を創出

あわら温泉の持つ特異な歴史や源泉の特徴、福井県が誇る伝統工芸の数々などは、魅力的な温泉街に不可欠な要素である「文化体験」を創出するに十分な資源と言える。反面、あわら市にはいくつかの文化施設が存在しているものの、あわら温泉の歴史や福井県の伝統・文化を体感できる場は、温泉街にはまだまだ乏しい。

このため、あわら温泉の歴史文化の出発点とも密接に関わる舟津温泉区薬師堂を一つの拠点とし、温泉街で文化体験ができる施設や仕掛けを構築していく。

概要	・舟津温泉薬師堂に「回廊型展示施設」を設け、あわら温泉の歴史文化を知るきっかけや、旅ナカの目的地選択のヒントを得ていただく
ターゲット	・すべての来街者
展示内容	・あわら温泉の歴史、三薬師について などを展示 ・あわら温泉各旅館の庭園文化の紹介 ・福井の工芸品の展示 ・福井平野の文化資源紹介
来街者の楽しみ方	・あわら温泉街を象徴する場所らしい舟津温泉区薬師堂を訪ねてみたら、旅先ならではの発見があった。あわら温泉を知ることができ、大満足。 ・あわら温泉からもう少し足を延ばしたくなるような情報があって、福井旅が充実。
整備内容	・舟津温泉公園内舟津温泉区薬師堂庭園への「回廊型展示施設」の整備 ・上記に伴う、舟津温泉区薬師堂外構デザイン改修

◆展示コンテンツ(案)

【歴史を知る】



あわら温泉の起源や三薬師の歴史を、洗練された展示手法によって、平易に知ることができる展示

【福井の工芸を知る】



越前漆器、越前和紙など福井県を代表する工芸品を展示

【文化を知る】



各旅館の庭園文化や、74本の異なる源泉など芦原温泉の温泉魅力についての展示

【近郊の魅力を知る】



あわら市内の金津創作の森や宮谷石切場跡、北湯はもとより、三国湊レトロや東尋坊など坂井市を含む近郊魅力を展示

総湯・湯のまち文化の中核としてのセントピアあわら

セントピアあわらは、従来それぞれの温泉区が有していた総湯を統合した温泉街に残る唯一の総湯。現状、利用者は定期券も含む地元利用が約半数で、高齢化や周辺の類似施設の開業に伴い徐々に利用者数は減少、また施設の老朽化に伴う修繕負担も増大し、年間数千万円を市から補填しながら運営を継続している状況だが、施設コンセプトをアップデートし、改めて温泉街に不可欠な場として再生する。

概要	・セントピアを「まちの密度を上げるインフラ」として活性化
ターゲット	・地元利用をベースに据える - 温泉三区住民や温泉街の働き手による普段使い - 親子連れなど幅広い世代の市民による定期的な利用・暮らしへの取り入れ
来街者の楽しみ方	・温泉文化との出会いの場として湯のまちの暮らしを感じる ・あわらの温泉文化の中核として回遊の各コンテンツと連動
実現手法	・総湯として将来にわたって持続していけるよう温泉街の再生と連動しながら効率的な施設にアップデート

◆目指す将来像・温泉街との有機的な連携

施設コンセプト 自分たちの暮らしをアップデートしていく公衆浴場 まちの密度を上げるインフラとしてのセントピアあわら

湯のまちの暮らし・生活文化を醸成する

現状の利用者だけでなく、親子連れや働き手、あわら市及び近隣市の方々にとっても日常使いできる小さな贅沢・憩いの場として活用されるよう、温泉の楽しみを拡張する機能を点在させ、市民の温泉文化醸成、来街者にとっては湯のまち文化との触れあいの場となることを目指す。

温泉街と連動

湯のまち広場・芦湯が温泉文化の入口とすれば、総湯ではより深い湯のまちの暮らしに触れることができる。旅館の宿泊者も地域文化への好奇心から立ち寄りることのできる場と運営が必要。

総湯本来の魅力 暮らしをアップデートし 生活の温泉文化を醸成する機能 ▶ 新たな機能

	風呂	休憩	飲食	コミュニティスペース	展示スペース	屋外空間	本・雑誌
市民 .. 市民 .. 若い世代へ .. 歩きの拠点 .. 温泉文化を醸成 .. 地域文化に触れる場	・親子で日常使いできる小さな贅沢・人目を気にせずにお母さんがつるける ・部活や塾の帰りに子どもだけで利用 ・たまの利用でも気兼ねなく使える (清潔感・利便性・サービス)	・お父さんが風呂上がりのビールを楽しむ、子どもはアイス	・ペドマッサーみたいな親子のコミュニケーション ・地域文化を学ぶ場・世代を超えた教養娯楽としての本と温泉	・屋外の湯上り処で涼みながら繰り返し温泉を楽しむ	・親子で半日過ごす居場所 ・お風呂に入らなくても本を借りに来る		
市民 (既利用 高齢者)	・日常的な憩いの場として温泉を利用する ・いつでも温泉に来れる会員制ロッカー	・湯上り処の延長で、ビールと美味しい軽食を楽しめる	・地元温泉利用者が子どもや来街者に街の歴史を伝える ・簡単な健康チェックもできるサロン	・公共交通利用者の入浴料優遇			
働き手 (旅館ス タッフ等)	・日常ルーティーンの入浴でも友人に会うために公衆浴場を利用 ・熱湯・ぬる湯・薬湯・水風呂・サウナなど利用者の好みに応える	・若いスタッフ同士が交流してちょっとしたたまり場になっている	・覆たりにしゃべったり、読書したりが同居 (自由度の高い居場所)	・コワーキング			
近郊者 (坂井・加 賀・福井)	・近郊の公衆浴場利用者の需要を獲得 (温泉本来の魅力高める)	・お父さんが風呂上がりのビールを楽しむ、子どもはアイス					
日帰り 観光客 観光客 宿泊客	・観光客が、あわら温泉らしい暮らしに触れあう場 ・湯上り処を中心に何度も入浴し、飲食や図書館も利用可能な一日チケット・双方向の文化交流	・まちの案内機能/まちのひとのふれあいが生まれる場づくり ・温泉のスタッフが地域の歴史や泉質について語れる (遵守)	・まち歩きの拠点 (セントピアで置き替えて外歩き)				

5. 社会実験の実施

◆目的

- ・各スポットにおける将来像の空間イメージの共有
- ・温泉街における事業およびプログラムの方向性・可能性の検証
- ・空間配置・設置物、夜間景観の検証
- ・拠点の運営方法の検証
- ・実現に向けての課題の洗い出し

◆実施期間

令和7年9月6日(土)～
11月9日(日)

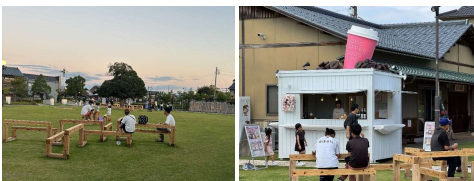
◆コンセプト

温泉街の「日常使い」の促進と、「回遊性・滞在性」の強化

◆主な取組概要

①あわら温泉湯のまち広場

- ・滞在環境の向上(什器・飲食)
- ・閑散期企画の実施(イベント実施)



②湯〜わくStand(現つるや駐車場)

- ・回遊の拠点となるスポットの創出
- ・アイストップとなるシンボルの創出



③湯けむり横丁空き店舗活用・駐車場移転

- ・横丁空間の拡張(屋外席含む)
- ・駐車場移転による見通しの確保・憩いの場の創出



④三薬師・アメリカフ並木道(夜間景観・よるもうで)

- ・夜間景観の創出、回遊施策、「よるもうで」の実施
- ・地域と連携した広場等の活用



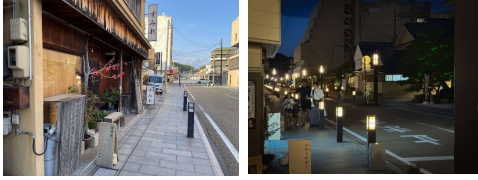
⑤つるや店舗スペース

- ・店先スペースを含めた店舗活用
- ・週末限定の飲食提供

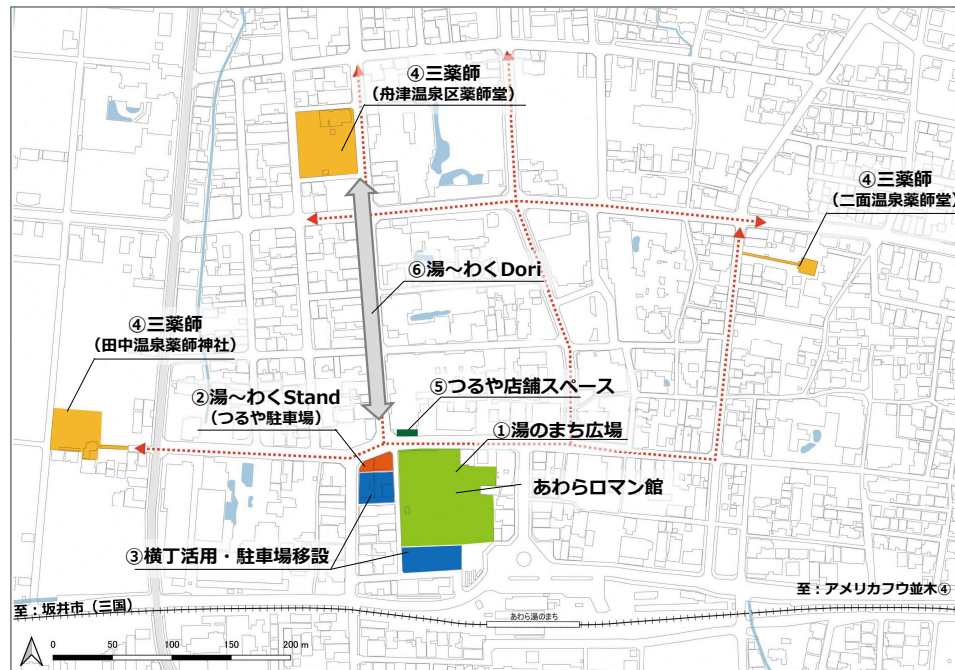


⑥湯〜わくDori

- ・民地側での温泉街らしい通りの演出
- ・照度の調整



【社会実験実施場所位置図】



◆情報発信

・プロジェクトや社会実験に関する情報を広く周知するため、プロジェクトのロゴを制作するとともに、各種媒体を活用した情報を発信

①チラシ・ポスター配布

- ・社会実験の実施にあたり、広報媒体としてチラシ・ポスターを制作
- ・市関連施設や湯〜わくStand等への設置・配布等を実施



②Instagramを活用した発信

- ・市内外へ広く発信できるよう、Instagramでアカウントを開設(あわら湯のまち 未来プロジェクト [@awara_yunomachi_pj])、主に社会実験や関連イベントなどについて発信
- ・現在(2025.12.09時点)のフォロワー1,605人 配信数 749本(投稿・ストーリーズ)
- ・閲覧数 約70万回(8月下旬投稿開始～11月9日まで)

③その他

- ・広報あわらやPR TIMES(7回)掲載
- ・トークイベント「湯のまちトーク」を実施
10/9・10/18 2回実施 約30名が参加
- ・メディア露出
福井テレビ1回 FBC4回 NHK3回
福井新聞8回 日刊県民福井8回
読売新聞1回 など



5. 社会実験の実施

◆地区と事業者の参画・協力

①地区住民の参画

・温泉三区には、三業師のライトアップに際し、照明設置や維持管理、シール在庫の管理等で協力いただいた。

②参画・協力事業者数

・71以上の事業者の参画と協力を得て実施。
・主に市内外の飲食店や物販、美容・ワークショップなどの事業者に参画いただいたほか、湯〜わくDori沿線店舗、旅館などには景観づくりの面で協力いただいた。

※コアイベント

「湯のまち浴衣DAY」

10月18・19日 湯のまち広場にて開催

浴衣着用で食や音楽を楽しむイベント

雨天のため、一部イベント中止

③出店事業者の売上

【出店事業者の平均売上額（1日あたり）】

出店場所	売上（1日平均）	出店者数（営業日数）
湯〜わくStand	14,453円	14社（47日）
湯けむり横丁空き店舗	21,375円	4社（33日）
コアイベント「湯のまち浴衣DAY」	21,572円	15社（2日）
あわらロマン館	4,608円	4社（6日）

・湯〜わくStand、湯けむり横丁の空き店舗、あわらロマン館、コアイベント時の広場に、全35社が出店

※試食の無料提供等もあり

・出店事業者のうち、湯〜わくStand出店者は7事業者が、湯けむり横丁は2事業者が、今後も出店に前向きであった。

④体験コンテンツの提供

【体験コンテンツ実績】

・体験コンテンツとして和傘レンタルと色浴衣の着付け体験を提供。
・「和傘レンタル」は4件、「色浴衣の着付け」は32件の申し込みあり。

体験コンテンツ	体験数	売上
和傘レンタル	4	無料
色浴衣レンタル	32	119,000円

【課題】

- ・料金設定
- ・周知不足（社会実験の終盤に一般の予約が入り始めるなど）
- ・コインロッカー等荷物の管理体制整備が必要
- ・浴衣の返却体制 など

【各取組における参画・協力事業者数（71社以上）】

参画	事業者数
湯のまち広場コンテナ出店	1
つるや店舗スペース出店	1
湯〜わくStand出店	14
湯けむり横丁空き店舗出店	4
あわらロマン館出店	4
コアイベント広場出店	9
湯〜わくDori景観協力店舗	10
よるもうで特典協力店舗	17
フライヤー・提灯設置協力	12以上

◆各種調査結果等の概要

①来訪者アンケート

・各取組に対する来訪者評価は、「とても良い+良い」が概ね80%以上を占める。

・評価が高い湯のまち広場に対しては「落ち着く」や「居心地が良い」、湯〜わくStandは「人が集い、話ができる」、ライトアップ（よるもうで）は「訪れるきっかけになる」等の好意的な意見あり。

・一方で、「場所や内容がわかりにくい」「夜道が暗い、危ない」「駐車場が不足」「ライトアップの規模が小さい」等の意見もあり。

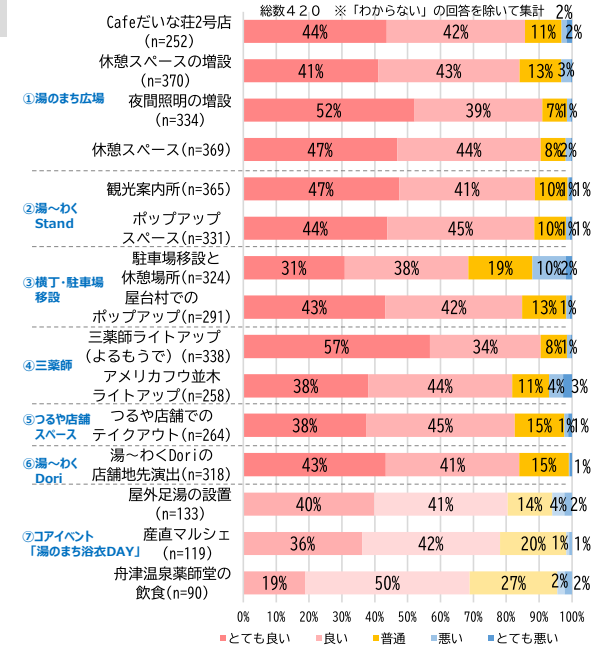
②湯〜わくStand出店者アンケート等

・良かった点に「地元も集まれる場所になっている」「目に止まりやすい立地環境」等が挙げられている。

・改善点は「駐車場不足」「周知不足・芦湯からの誘導」「雨や電源対策」「店舗環境（音楽・規模感）の改善」が挙げられている。

・観光案内スタッフからは、人の流れの特徴や発信、運営環境の改善点、提供サービスのアイデア等の意見あり。

【来訪者の取組に対する評価】



【湯〜わくStand出店者の意見】

▼良かった点	▼改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・地元の方も集まれる場所になっている ・案内所の横でお客さんの目に留まる ・目の前がメイン通りなので、気になる様子で一度足を止めてくれる 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンだから、入りやすい ・ライトアップやスペースの規模がちよど良い ・駐車場の数が少ない ・地元の方への周知が足りない ・雨が降ると、飲食がその場でできない ・音楽があると良い ・作業スペースが少ない ・芦湯から人を呼び込む工夫

【湯〜わくStand観光案内スタッフの主な意見】

項目	内容
人の流れ	<ul style="list-style-type: none"> ・お客さんは18〜19時の時間帯が少なく、夕食後の20〜22時が多いが、雨が降ると人通りが極端に減少する。 ・年齢問わず、カップルや夫婦が多く、芦湯が良いデートコースになっていると思う ・風が強い日も開放的にしておくことで、お客さんが来訪しやすい環境になっていると思う
発信	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人向けの表記が不足 ・芸能人を呼ぶなど、話題性のある発信が効果的
運営環境	<ul style="list-style-type: none"> ・湯〜わくStandがもう一か所あると良い。 ・防犯対策として、監視カメラがあると良い ・運営上、法被を着ていると来訪者に声をかけても不審がられなくて、良かった
提供サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食や物販の出店は見込めるため、お土産が充実していると良い ・温泉たまごづくりやフルーツ物販は良い ・あわらをイメージできる色のオリジナル傘やレンタル傘があると良いかもしれない ・湯めぐり権蔵を石像にすると温泉街らしいコンテンツの一つになるのではないかと

5. 社会実験の実施

③ 定期出店者の主な意見

- ・事業採算性が厳しいことや運営体制、発信（広場や芦湯PR、芸妓文化や源泉PR）、地域間連携について意見あり。

【定期出店者の主な意見】

項目	内容
湯のまち広場 (カフェだいな荘2号店)	<ul style="list-style-type: none"> ・週末や晴れの日は一定の売上はあったが、カフェだけで採算を取ることは厳しい。 ・休日、管理者が不在だったため、その場で（備品や設備等の）相談ができず困ることあり。 ・雨、雪、冬や閑散期の対策が必要であり、滞在場所は芦湯のみになる。 ・来訪者が広場の写真を撮って発信してもらうための仕掛けがほしい。 ・雨でも大丈夫な足湯なので、芦湯をもっとPRすべき。
つるや店舗スペース (つるやコア)	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客・地元の方に来ていただき、イベント時は人もあったが、天候に左右される。 ・売上は日によって差が生じており、いずれの日も採算ベースにはのっていない。 ・芸妓文化や源泉など、もっとアピールできるものがあると思う。 ・アフレアでのイベントは集客があるので、芦原温泉駅との連携があると良い。

④ コアイイベント広場出店者の主な意見

- ・良かった点は「出店者同士との交流」「会場の雰囲気や設営環境」「会場の立地場所」等
- ・改善点は「動線や周囲へのPRを考慮したレイアウト等の改善」「年齢層に応じた周知方法の改善」「季節を考慮した開催日の設定」「飲食の営業時間の統一」等

【コアイイベント広場出店者の主な意見】

▼良かった点	▼改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・出店者同士の交流ができたこと ・自分のお店を知ってもらうだけでなく、市内店を知ることができ刺激を受けた ・場所や雰囲気も良く、続けると集客が増えそう ・テントや机の設営があり助かった。 ・使い方次第でもっと人は来ると思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・外から何をしているか導線も含めわかりにくかった ・広場は雰囲気が良い ・屋外のため雨の少ない季節に開催すると楽しめると思う。 ・世代に応じた周知方法が必要 ・飲食出店の時間がバラバラだった

⑤ 横丁空き店舗出店者の主な意見

- ・良かった点は「ターゲットや需要が把握できたこと」「出店者のPR・新規顧客獲得に向けた周知ができたこと」「期間限定で出店できたこと」等
- ・改善点は「出店期間や出店環境（出店期間・案内サイン）の改善」「実店舗がない事業者の周知」「備品不足」等

【横丁空き店舗出店者の主な意見】

▼良かった点	▼改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・接客の中でどのような人がどのような目的で来訪しているか把握できた ・横丁来訪者の需要が把握できた ・新規顧客や近隣常連客へのアピール ・期間限定で家賃がなく出店チャレンジできたこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・横丁をオープンな形態に改装できるとよい ・サイン等で店舗を知ってもらうための対応が必要 ・期間1週間単位では短すぎる ・備品が不足していること

⑥ 地域からの主な意見

- ・よるもうでは取組は温泉街の雰囲気づくりや回遊性向上に効果的であったとの意見が挙げられている一方、舟津温泉区薬師堂の出店環境や夜間の周辺道路環境の改善、アメリカフウ並木の規模感、取組みを継続するための運営体制構築の必要性等について意見あり。

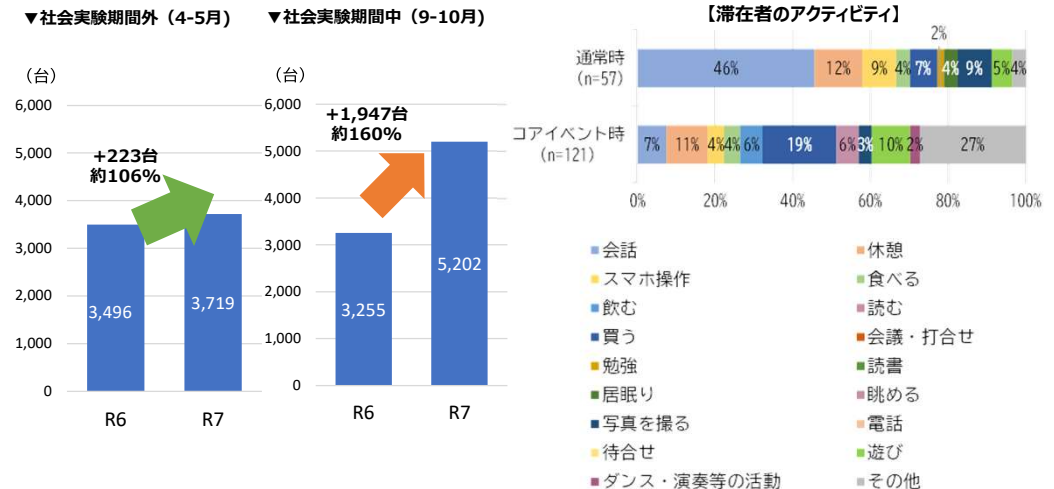
【地域からの主な意見】

項目	内容
よるもうで	<ul style="list-style-type: none"> ・三薬師ライトアップは良い取り組みであり、まちな行くきかけになっている。 ・若いカップルや親子が提灯を持って歩く姿は、温泉街の雰囲気を良好にしている。 ・賽銭箱は舟津で2～3倍、田中で4～5倍程度あり、回遊性向上の効果があった。 ・その一方で、現在の道路環境は所々暗く（特に二面）、夜歩ける環境になっていない。 ・今後、まちづくりと管理が一体となった運営組織や来訪者ニーズを踏まえたおもてなし（写真撮影等）など、体制づくりや事業者等の協賛・住民協力が必要
アメリカフウ並木	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカフウは距離が短く、残念。 ・あわらで継続している灯源郷との運動も考えてほしい。
舟津温泉薬師堂活用 (ふなつ温泉茶屋)	<ul style="list-style-type: none"> ・コアイイベントでの売上は人件費を含めると採算ベースにのっていない。 ・単発の出店では売上改善は難しいが、3～4年かけて継続的に取り組むことで収益化の見込みはある。 ・今後の定期出店を見据え、社務所整備や運営体制の構築が必要。

⑦ 駅南口駐車場調査/湯のまち広場滞在・アクティビティ調査

- ・社会実験前後の駅南口駐車場の利用状況は、社会実験期間中の利用が大きく増加し、温泉街全体の来訪増が想定。
- ・湯のまち広場滞在者のアクティビティは通常時は「会話」が多く、コアイイベント時は「その他（屋外足湯等）」「買う」など分散しており、コンテンツがあるほど、多様なアクティビティが見られる。

【湯のまち駅南口駐車台数の比較】



※その他の内容：「屋外足湯」等

5. 社会実験の実施

⑧ よるもうでうちわ・特典ステッカー・シール配布状況

・よるもうでに使用するうちわは165.0枚/日、特典ステッカーは23.6枚/日、よるもうで立ち寄りポイントで貼り付けるシールは、芦湯が57.5枚/日、舟津39.4枚/日、二面38.1枚/日、田中43.4枚/日配布。

【よるもうでうちわ等の配布数】

項目	配布数/利用数	日数	1日あたり
うちわ (旅館・Stand等で配布)	10,725枚	65日	165.0枚/日
特典ステッカー (4シール達成者)	1,532枚	65日	23.6枚/日
シール	芦湯	3,738枚	57.5枚/日
	舟津薬師	2,564枚	39.4枚/日
	二面薬師	2,475枚	38.1枚/日
	田中薬師	2,824枚	43.4枚/日

▼よるもうで (うちわ・シール)



▼特典ステッカー

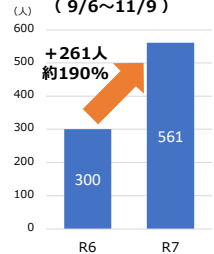


⑨ 三薬師周辺の人出の状況

(おでかけウォッチャー(※)による前年度比較)

・社会実験期間と前年同時期における三薬師周辺の人出は約90%増加。

▼三薬師周辺の人出状況の比較
(9/6~11/9)



※おでかけウォッチャーの特性

滞在時間15分以上、居住地が20km以上離れた人のみカウントするため、実人数に比べ少ない人数が計上

⑩ 駅前ロータリーの視認性向上

- ・今回の社会実験に合わせて、あわら湯のまち駅と湯のまち広場境界付近の樹木を伐採し、駅からの視認性が向上。
- ・湯のまち広場の空間整備に伴う来訪者のアクセス増加に合わせ、駅南口駐車場利用の増加が想定。
- ・上記に伴い、駅を起点・経由する人流の増加が想定。

▼樹木伐採前 (Before)



▼樹木伐採後 (After)



◆ 社会実験で創出されたシーン等

① あわら温泉湯のまち広場

▼日中の休憩、子ども遊び



▼夜の賑わい創出



▼伝統芸能館におけるトークイベント



▼屋外足湯 (コアイベント)



② 湯〜わくStand

▼飲食店舗に集まる観光客



▼子ども達も楽しむ謎解き店舗



▼出店者と地元の方との交流



▼海外の方の出店



③ 湯けむり横丁・駐車場移転

▼ベンチで休憩



▼閉じられたままのパラソル



▼空き店舗活用による出店



▼空き店舗におけるWS (コアイベント)



④ 三薬師 (夜間景観・よるもうで)

▼Standに集まる来街者



▼写真撮影



▼提灯の貸し出し



▼よるもうで参加者



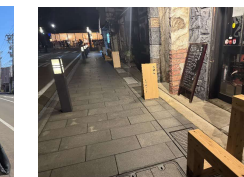
⑤ つるや店舗スペース

▼飲食提供による沿道の賑わい、食歩き



⑥ 湯〜わくDori

▼飲食店の統一看板・ベンチ



▼旅館入口付近に提灯



◆社会実験のまとめ

【社会実験で得られた成果】

●市民の日常使いや来訪者の滞在性、回遊性、賑わい等への寄与を確認

- ・あわら温泉湯のまち広場、湯〜わくStand、三葉師のライトアップ（よるもうで）、つるや店舗スペース活用、湯〜わくDori沿道の地先演出と合わせて、温泉街の回遊性の向上に寄与
- ・特に、湯〜わくStandは市民や来訪者の交流、イベントやまちなかの情報発信、よるもうでの案内など、温泉街の賑わい創出にも寄与する拠点として機能

①あわら温泉湯のまち広場

- ・飲食店のコンテナ出店やベンチ、テーブル等の設置によって、日中も夜も広場で飲食や休憩をする人たちが多くなり、滞在性の向上を確認
- ・イベントにおける出店や屋外足湯等によって来訪者の滞在性の向上、多様なアクティビティが生まれることを確認
- ・芦湯に隣接する「伝統芸能館」ではライトアップをテーマとしたトークイベントの開催や色浴衣のレンタルなど、施設の有効活用に向けた可能性を確認
- ・「ロマン館」においてはワークショップを開催するなど、有効活用に向けた可能性を確認

②湯〜わくStand

- ・観光案内機能と店舗機能を併せて設置することで、多くの人に立ち寄りいただける拠点になることや、市民と来訪者の交流が生まれることを確認

③湯けむり横丁空き店舗活用・駐車場移転

- ・湯けむり横丁の空き店舗を活用した飲食店出店（1週間単位）により、普段とは違った活用の可能性を確認
- ・湯けむり横丁横の駐車場を芦湯西側に移転し、車や人の流れに大きな問題がないか、駅からの視認性確保の可能性を確認
- ・広場内は落ち着いた居心地の良い空間として評価

④三葉師（夜間景観・よるもうで）

- ・湯〜わくStandを夜まで運営し、三葉師のライトアップや提灯の無料貸し出し等を行うことで、夜のまち歩きの可能性を確認

⑤つるや店舗スペース

- ・つるや店舗部分に飲食店があることで、広場からまちへ人が流れることや湯〜わくDoriと湯〜わくStandのつながりが生まれることを確認

⑥湯〜わくDori

- ・統一の提灯やベンチ、看板等を設置して、景観づくりの可能性を確認
- ・沿道にベンチを設置することで、通りの滞在性向上を確認

【課題・今後の検討】

①温泉街の具体機能の検討

あわら温泉湯のまち広場

- ・広場全体に休憩できるスペースが少なく、悪天候時は、芦湯内しか滞在できない
- ・伝統芸能館は閉じられているイメージが強く、ロマン館は奥まわってわかりにくい
- ・広場内、周辺における飲食物販等の事業性が低い
- ・荒天時等の日々の管理（パラソルの開閉、イス等の一時撤去）ができない
- ・屋外足湯の常設に向けて、維持管理も含めたさらなる検証が必要
- 広場全体の滞在性向上、事業性向上に向けて、広場スペース部分や伝統芸能館、ロマン館のオープンな広場への改修と、広場の活用も含めた運営管理方法も検討
- 屋外足湯の需要や維持管理方法について検証

湯〜わくStand

- ・まち歩き拠点としての案内機能、飲食物販機能の運営や維持管理をどうしていくのか
- 広場との機能分担を検討するとともに、具体機能と、運営方法を検討
- ・飲食店スペースが狭い、屋根が欲しい
- 悪天候時にも滞在できるスペースを確保

駐車場移転

- ・イベント時や週末などは、広場周辺の駐車場が不足
- 駐車場の移転や、南口駐車場からのまち歩きの動線づくりも視野にエリア全体の交通計画を検討

三葉師（夜間景観・よるもうで）

- ・よるもうでも好評で多くの人が三葉師を巡ったが、今後継続していくためには、どうしていくのか
- 三葉師だけでなく、広場、Stand、湯〜わくDoriなど温泉街全体の夜間景観をつくり、まち全体の魅力を高めていくために、環境整備や持続可能な運営方法を検討
- また、単なるナイトコンテンツとしてではなく、その根底にある文化の部分を持ち上げていくことが、地域にとっても、来訪者にとっても重要な文化体験となるので、あわら温泉やあわら市、福井県内の歴史の発信、文化体験などの機能についても具体的に検討
- ・三葉師を結ぶ道中（特に二面温泉）が暗い
- ・アメリカフウのライトアップの規模が小さすぎる
- エリア全体のランドスケープを検討していく中で、温泉街の街灯やアメリカフウの規模感も精査

湯〜わくDoriほか

- ・試験的にベンチや提灯を設置して統一景観をつくったが、維持管理を含めて継続するにはどうしていくのか
- エリア全体で景観づくりについて議論していく必要があり、今後検討

②施設等の管理運営を行う組織づくり

- ・より良い空間を維持するためには、日々、柔軟に対応できる施設等の管理運営が必要
- 広場や湯〜わくStandにおいては、出店者や市民・観光客等の来訪者と温泉街（広場、三葉師、沿道、横丁、飲食店）をつなぐため、ハブとなるスタッフが必要となるため、人的リソースを含め、管理運営を行う組織づくりが必要

③まちの機運を維持、向上するための継続的な取組の実施

- 今回の実験には多くの温泉街の住民や旅館関係者、沿道の飲食店などの地元関係者に参画いただいた。社会実験の実施によって生まれた機運の維持・向上と、課題解決、コンテンツの定着化を図るために、今後も引き続き、継続的な取組が必要

6. あわら温泉の目指す将来像

短期的計画
(～令和10年度)

中長期的計画
(令和11年度～)



6. あわら温泉の目指す将来像

あわら湯のまちみらいプロジェクト 全体整備イメージ



舟津薬師堂・舟津薬師公園



舟津薬師堂・舟津薬師公園夜間景観



二面薬師堂夜間景観



アメリカフウ並木



歩行者空間ネットワーク (優先整備空間)

舟津薬師堂

二面薬師堂

セントピア

田中薬師堂

湯〜わくstand

湯のまち広場

歩行者空間ネットワーク

アメリカフウ並木



湯〜わくstand



湯のまち広場・湯〜わくstand全景



田中薬師堂夜間景観



湯のまち広場

6. あわら温泉の目指す将来像

あわら温泉湯のまち広場

あわら湯のまち広場は、「わらわらあわら」の出発点として、また、あわら湯のまち駅と湯〜わくDoriをつなぐ「みち」広場として、人がたまる空間づくりを目指す。そのためには、「みち」に面する地先空間の魅力的な活用や賑わいづくりが継続的に行われることが必須である。

その魅力的な活用や賑わいづくりを持続可能なものにしていくために、運営事業者や維持管理の仕組みを明確にした上で整備を行っていく。

◆どこから見ても「絵になる広場」へ



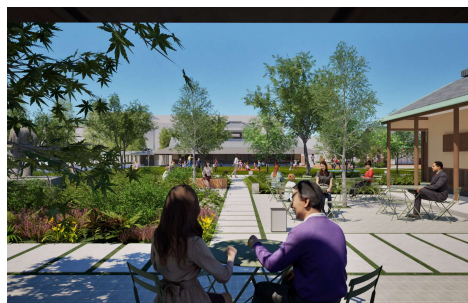
あわら温泉湯のまち広場。駐車場位置を変更し、広場の魅力が見通して感じられる。樹木は夜にはライトアップ

◆芦湯を磨き上げ、人々がわらわらと滞在できる場所を創出



広場北側から芦湯を望む。屋外足湯やデッキにわらわらと佇む人の気配が、新たな広場の景色を創る。

◆それぞれの建物の前を作り込み、人々が「わらわら」する場所をつくる



あわらロマン館：カフェ等のにぎわい施設を誘致し、建物前にオープンテラスを設ける



北側広場：キッチンカーのスペースを設け、広場の東側には東屋やロングベンチ、西側にも木陰スペース

目指す姿・導入機能

「わらわらあわら」の出発点として、あわら温泉に滞在するための象徴的な場となる。飲食機能や物販機能、交流機能が充実し、朝から夜まで、様々なシーンが生み出されている。具体的には、広場内各施設のおける様々な活動を誘発し、それが広場全体の豊かな利活用と結びつくこと、この場所が温泉街の回遊の拠点となることで街での滞在時間を増やすことを目指す。

(実現を目指すシーン)

- 広場全体が温泉街のシンボリック空間となり、市民、観光客ともに集い交わる場所となっている
- 様々なコンテンツが集約されることで、広場の滞在時間や賑わいが向上している
- 緑地に置かれた什器や芝生は市民が日常的に憩う場となっている
- 観光客にとっては温泉街で最初に訪れるべき場所となり、写真スポットになっている
- 夜間もライトアップされ、そぞろ歩きや夕涼みなどの場所として人が滞留している
- 週末にはキッチンカーやポップアップの出店があったり、音楽が流れていたり、いつ来ても何かが行われている場として認知されている
- 各団体や市民と連携した柔軟なイベント利用が行われ、継続的に発信されている

必要な整備

- ・芦湯や伝統芸能館など、広場に面して建てられている施設と広場を繋げる計画が必要。カフェ機能など施設の機能強化と、それらを楽しむために地先にベンチや縁側、軒下やテラスなどの滞留空間整備を一体的に行うことが求められる。
- ・見通しの確保。駅から湯〜わくDoriまで見通すことができるようにするため駐車場や樹木の整理が必要となる。
- ・夜間景観の充実。夜の散策を支える夜間の照明計画と写真撮影を撮りたくなるあかりのデザイン。特に芦湯については、周辺の植栽整備と合わせて象徴的な夜間景観を作りこみ、あわら温泉を代表する絵になる場所とする。

6. あわら温泉の目指す将来像

あわら温泉湯のまち広場における各施設の再編 【芦湯】

目指す姿・導入機能

湯のまち広場の最大の集客施設であり、それに見合う空間や夜間演出を加えることでより象徴性を高める。足湯を屋外に拡張するとともに、建屋内からの抜けを強化し、敷地内の賑わいが広場ににじみ出る空間に再編する。

(実現を目指すシーン)

- 湯のまち広場および温泉街を代表する空間として多くの市民・観光客に利用されている
- 足湯が屋外に拡張されることで、温泉街らしい風景が外からも見える位置でつくり出されている
- 既存建屋の内外が一体的に活用されることによって広場に賑わいが参み出している



必要な整備

- ・広場に向けて開かれた縁側の設置
- ・縁側に足湯を計画し広場を眺めながら入ることができる芦湯の計画
- ・縁側の底を伸ばし、夏の日除対策を行う。
- ・縁側と内部をつなぎ多様な足湯シーンを計画する。
- ・足湯を軸とした様々なサービス（マッサージ、ペディキュア等）の展開

6. あわら温泉の目指す将来像

あわら温泉湯のまち広場における各施設の再編 【あわらロマン館・藤野徹九郎記念館】

目指す姿・導入機能

現状、芦湯を除いてゆっくりと時間を過ごす場に乏しいことを踏まえ、広場全体で市民と観光客の双方にとって「まちに行く理由」を創出することが必要。

あわらロマン館については、現在の撮影スポットとしての利用を見直し、気軽に利用できるカフェ・軽飲食機能の導入を目指す。藤野徹九郎記念館については、基本的な機能は現状のまま維持するが、受付事務に関してはロマン館の運営事業者に集約することを検討し、可能であれば事務所を縮小、ロマン館の機能導入のための利活用スペースとして利用する

(実現を目指すシーン)

- 民間事業者により飲食店舗が運営され、広場の滞在環境・時間を向上させている
- 市民・観光客がテイクアウトした飲食物を片手に足湯や芝生広場を利用し、ゆったりと時間を過ごしている
- 地先の植栽・ベンチの空間がオープンカフェとして利用され、カフェの集客が広場の賑わいと運動している
- ロマン館・記念館の一部が、一体的に運用されることにより、賑わい・運営の相互補完が生まれている



必要な整備

- ・あわらロマン館にカフェなどの飲食提供機能を入れ、広場でのアクティビティを充実させる。
- ・飲食機能と連動したオープンテラスを前面緑地に計画し、屋外の滞留空間を充実させる。同時に、夏場でも利用できるような日除や暑さ対策が必要。

6. あわら温泉の目指す将来像

あわら温泉湯のまち広場における各施設の再編 【あわら温泉屋台村湯けむり横丁】

目指す姿・導入機能

現在の駐車場を移転することにより、より視認性が高まることを活かし、湯のまち広場の顔の一つとして、入口の湯けむり横丁の雰囲気より高める空間を目指す。基本的な機能は現状のまま維持しつつ、広場の活性化と合わせた拡張可能性や夜間以外の利活用に関しても運営者とともに検討を行う。

(実現を目指すシーン)

- 駐車場の移転により、横丁の雰囲気が広場にもしみ出し広場の雰囲気づくりの一端を担っている
- 店舗の拡張や夜間以外の営業も行うことで集客力を高め、広場の事業性や賑わいを高めている



必要な整備

- ・広場側からのエントランスゲートの充実を図る。
- ・前庭と樹木の整備と滞留できるベンチおよび手湯の整備を行う。
- ・湯のまち駅と湯のまち広場をつなぐ歩行空間の整備を行う。

あわら温泉湯のまち広場における各施設の再編 【伝統芸能館】

目指す姿・導入機能

湯のまち広場およびまちとの運動の乏しい現状から、外構等を整備することにより、回遊動線の向上と芝生広場と運動した活用が誘発されるような空間に再編する。芦原温泉芸妓共同組合の活動が継続できるよう、現在の活用形態に関しては維持しつつ、公共スペースを開放的に、さらに活用しやすくするための改修を行う。

(実現を目指すシーン)

- 広場および県道側に開くことで、広場と県道、湯〜わくStandへの回遊性が向上している
- 伝統文化等のコンテンツ発信がなされ、温泉街の魅力より深いものになっている
- 事務機能などが集約され効率的なエリア運営の基盤となっている



必要な整備

- ・伝統芸能を楽しむことができるコンテンツの実装。これまでの枠を超え、広く伝統文化に触れることができる場を内部に設ける。
- ・あわせて、外部に縁台の設置など滞留空間を設ける。
- ・また、湯〜わくDori側からの受けとして、現在の設備室の移設。建物裏側に入り口を設けるなど、これまでクローズだった伝統芸能館を積極的に人を迎え入れる施設に変えていく。

6. あわら温泉の目指す将来像

あわら温泉湯のまち広場（全体）



湯のまち広場の目的

「交流」

地元 × 観光客

芦湯での日常の交流やイベントでの交流が行われる場所。

地元 × 地元

市民同士の交流など、地元の人たちが時間を過ごすことができる場所。

観光客 × 観光客

観光客同士が出会い、語ることができる場所

湯のまち広場に 求められているもの

1. つい写真が撮りたくなる風景

例えば、草津温泉の湯畑や長門湯本温泉の竹林のように観光客がつい写真を撮りたくなり、あわら温泉の印象をつくる風景が求められています。

2. あわら温泉を象徴する広場空間

様々なイベントに対応し、人々を集めるとともに「あわら温泉らしさ」を感じるここならではの広場空間が求められます。

3. まちへ繰り出す目的となる施設

宿泊客がわざわざ街へ行ってみたいと思うような施設が広場に含まれ、湯のまち広場を介して、駅前から湯〜わくDori、温泉街へと連続性を持つことが重要です。

湯のまち広場を「湯のまち」を感じられる広場に

現在の湯のまち広場は、芦湯があるものの施設としては閉じていて、広場で「湯のまち」を感じることができません。やはり、広場にきた時に「湯」を感じることができる風景が求められるのではないのでしょうか？
芦湯、湯けむり横丁、芝生広場といった今ある施設の価値を上げていくこと、これらと連動性の高い機能を入れていくことで「交流」の場としてより価値を高めていく必要があります。

6. あわら温泉の目指す将来像

湯〜わくStand (仮称 (以下同様))

目指す姿・導入機能

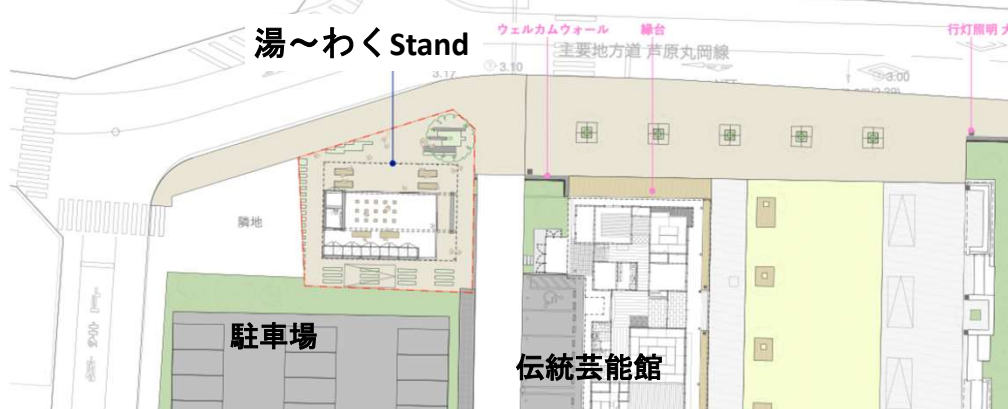
「湯のまちの玄関口」として、具体的な導入機能としては、観光案内と物販が入ることを目指す。

観光案内：よるもうでなど回遊コンテンツおよび観光案内の拠点機能

物販：立ち寄りやすさを活かしたご当地のセレクトショップをベースにポップアップ等も実施

(実現を目指すシーン)

- 温泉街の結節点にあかりが灯ることで、温泉街の回遊性を向上させている
- この場所が起点となり様々なプログラムが展開されることで、多くの人がそぞろ歩きをしている
- 温泉街およびエリアの様々な情報の発信拠点として機能している
- 周辺の産品を販売し、エリアの魅力の伝達や周辺エリアへの回遊を生み出している
- ポップアップショップなどチャレンジできる空間が新規事業の後押しをしている



必要な整備

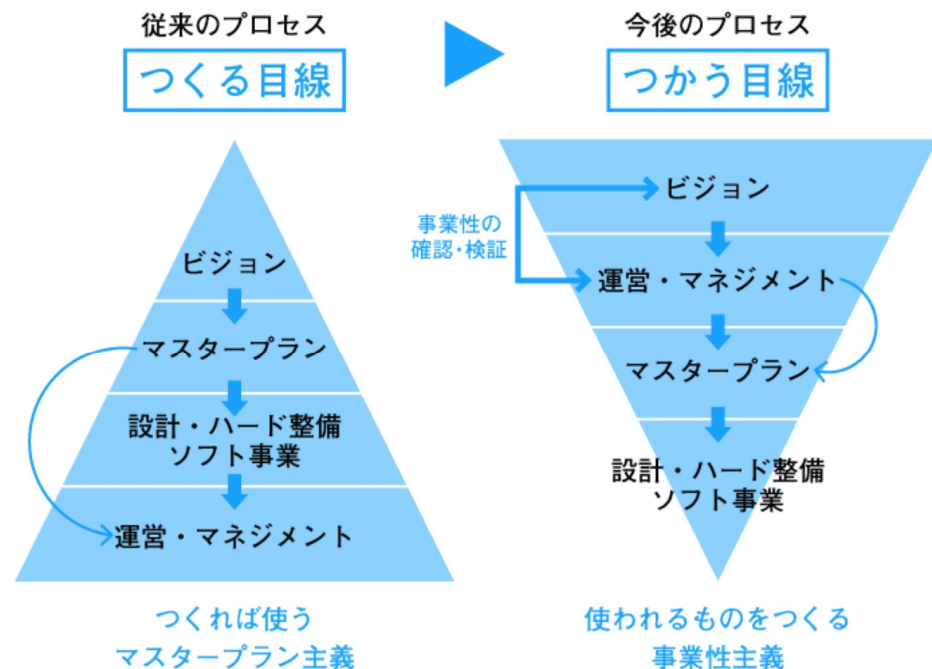
- ・情報案内などの観光機能と物販機能を持った建築の設置
- ・湯のまち広場駐車場の移設
- ・新しく立つ建築施設の前面に広場空間を計画。湯〜わくDoriからのアイキャッチとなる施設を目指す。
- ・夜間景観の充実
- ・湯のまち広場と一体的な広場となるよう、舗装などを合わせる。



6. あわら温泉の目指す将来像

湯のまち広場や湯〜わくStandの地先活用をみらいプロジェクトのリーディング事業として位置づけ、ハード整備・ソフト事業を一体で進める。

⇒関わる民間事業者を見極めて進める



無断転載禁止 ©HeartBeatPlan Inc. All Rights Reserved.

「つくる目線」（つくれば使うマスタープラン主義）ではなく、「つかう目線」（使われるものをつくる事業性主義）でのハード整備を実施する。

<官民連携>

行政は、民では実施できないインフラ整備やスキームづくりなどを行い、民間主体は、リスクを負って事業を推進し、きちんと稼いで利益をまちに再投資する。

行政がパブリックマインドを持つ民間主体を後押しし、官民連携で事業を推進する。

実現に向けた検討ステップ

芦湯（外足湯）

広場全体の空間再編と合わせて、行政において建屋・足湯設備を改修する。
足湯の拡張に伴い、広場と連動した利活用が期待できる一方、維持管理コストが増大することが想定されることから、現からのコスト増部分の対応も含め、持続可能な運営の在り方について、（1）広場全体の活用管理体制の構築およびその財源をあわせて検討する。

あわらロマン館（藤野巖九郎記念館）

飲食機能等の事業内容や運営スキーム、民間事業者の参入の可能性が高まった時点で、芝生広場と一体での空間再編を行うために、行政において外構や建築・インフラの投資を行う。

- i 事業者ヒアリングにより事業の実現可能性を精査。
- ii 行政と民間事業者の役割分担を確定 ※記念館の機能集約に関する内容も含め調整。
- iii 事業者公募・選定 ※広場全体の利活用・管理の枠組みとも連動した内容にする。
- iv ロマン館周辺の空間整備を行う。

伝統芸能館

外構に関しては広場全体の空間再編と合わせて行政において改修する。建屋内部の活用に関しては、芸妓組合の活動継続を前提に、可能な活用方法について協議を進め、広場全体の中で必要な機能が導入できる可能性を精査する。

あわら温泉ゆけむり横丁屋台村

店舗拡張の可能性については早期に結論を得た上で、入口部分の設えは広場全体の演出と合わせて検討する。夜間以外の利活用に関しては、広場全体の活用管理体制の構築とあわせて運営者と協議を行う。湯のまち駅から湯のまち広場への歩行空間（横断歩道含む）の整備についても、中長期的に検討していく。

あわら温泉湯のまち広場

湯のまち広場内の各施設の空間再編を進めるとともに、広場全体の運営の見直しを検討する。まずは新たに広場での事業を立ち上げた上で、広場内及び周辺も含めた新たな事業者が出そろう中で、そこに関与する事業者と一体で新組織を立ち上げ、広場の活用や運営体制も決定しながら広場内の整備を進めていく。

- i 事業スキーム構築 & 新組織構想
- ii 事業者募集・選定
- iii 広場のインフラ整備
- iii 事業開始と併せて新組織立上げ
- iv 指定管理等の移行

湯〜わくStand（仮称）

湯のまち広場と湯〜わくDoriの結節点であり、アイスポットとなる設えが必要となるため、行政において外構や建築・インフラの投資を行った上で、Stand全体の運営は観光まちづくり全体と一体で進めることを目指す。この中で、テナント事業者の公募や既存の観光案内機能との連携や役割分担について協議を進める。

- i 観光案内機能に関する関係機関とともに実現可能性を精査
- ii 行政と民間事業者の役割分担を確定
- iii 事業者公募・選定

6. あわら温泉の目指す将来像

三薬師（舟津温泉区薬師堂、二面温泉薬師堂、田中温泉薬師神社）

目指す姿・導入機能

地域の歴史文化の象徴として環境整備され、温泉街回遊の目的地の一つとなる。各薬師がそれぞれの地域組織と連携した運営体制が構築され、地域の歴史・文化発信の拠点となるとともに、よるもうでをはじめ回遊を促すコンテンツが創出される。

- 市民中心に維持管理された空間が、まちの歴史を象徴する場所として認知されている
- 魅力的なライトアップが温泉街のそぞろ歩きを生み出している
- 温泉街の歴史に触れることのできる場所として、観光客の温泉街での体験に深みを与えている



実現に向けた検討ステップ

施設を保有・管理する各温泉区とともに実証等を重ねながら、徐々に照明の整備をはじめ目的地にふさわしい環境整備に向けて取り組む。舟津温泉区薬師堂の公園敷地に関しては、行政において整備を進める。

湯のまち文化の醸成（中期的）

目指す姿・導入機能

現状の利用者だけでなく、親子連れや働き手、あわら市および近隣市の方々にとっても日常使いできる小さな贅沢・憩いの場として活用されるよう、温泉の楽しみを拡張する機能を点在させ、市民の温泉文化醸成、来街者にとっては湯のまち文化との触れあいの場となることを目指す。湯のまち広場・芦湯が温泉文化の入口とすれば、総湯ではより深い湯のまち暮らしに触れることができる場。旅館の宿泊者も地域文化への好奇心から立ち寄り寄ることのできる場づくりと、それを継続していく運営が必要。

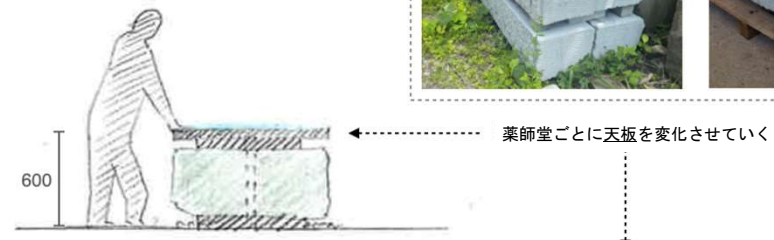
総湯・湯のまち文化の中核としてのセントピアあわら

セントピアあわらは、従来それぞれの温泉区が有していた総湯を統合した温泉街に残る唯一の総湯。

あわら温泉ならではの薬師や各旅館が整備してきた庭園、また周辺地との連携や交流は、いずれも温泉文化と紐づくものであり、温泉文化そのものが湯のまちの中核にある。

手湯の設置・活用と泉源ブランディング

泉源の豊富さはあわら温泉の特徴であるが、まだその魅力が十分に温泉街で感じられる状況にはない。泉源の豊富さをどのようにブランディングしていくか、また、薬師に手湯を設置するなど散策の中でも身近に感じられる仕掛けをどう実現していくかが湯のまちの文化醸成に必要なことである。



実現に向けた検討ステップ

湯のまち文化の中核である総湯の存続は不可欠である。ただし同時に、過度な財政負担が継続することは現実的でない、また、既存施設を基にした運営の見直しにも限界がある。このため、温泉街の再整備の中でセントピアあわらの果たすべき役割を精査し、必要な機能を絞り込むとともに、これを実現するための新たな枠組みを検討することが必要となる。施設整備に関しては施設改修や建て替え、施設運営に関しては公民連携での実現方法など幅広く検討し、実現に向けて最も効率的な方法で、公共施設全体の見直しの中でのアップデートを目指す。また、検討に当たっては、湯のまち文化の中核としての位置づけを十分に踏まえ、温泉街全体と歩調を合わせた事業の進め方についても合わせて検討する。

6. あわら温泉の目指す将来像

舟津温泉区薬師堂（中期的）

目指す姿・導入機能

舟津薬師堂に湯〜わくDoriと直結した舟津温泉区薬師堂については、公園敷地も充実しており、また回遊動線の中でも特に重要な位置づけとなることから、参道の再整備など魅力的な空間創出を行う。

（実現を目指すシーン）

- エリアの歴史や文化の拠点として地域内外に対して発信を行なっている
- 回遊動線上の一角としての拠点性を持ち、温泉街の滞在性・回遊性を向上させている
- 温泉街の歴史に触れることのできる場所として、観光客の温泉街での体験に深みを与えている



薬師堂から「あわら温泉」を知る。

あわら温泉の歴史にふれる
3つの薬師堂を巡る

あわら温泉の季節にふれる
各旅館の庭園を巡る

あわら温泉の
おもてなしにふれる
工芸を知る。

あわら温泉の地域文脈を知る
福井平野を巡る

歴史を知る掲示 (サイン計画)

庭園

福井の工芸展示

福井平野の 文化資源紹介



必要な整備

- ・舟津温泉区薬師堂の参道整備。現在敷地境界から繋がっていない舗装を繋ぐ。
- ・社務所の入っている建物をカフェに変更する。
- ・現在地元のお祭りなどが行われている広場スペースの改修。芝生化などを通して地域に愛される薬師堂を目指す。
- ・回廊を設置し、雨や日除対策を行うとともに、回廊にはあわら温泉を伝える様々な歴史や、あわら温泉からつながる福井の様々な観光地への案内を展示し、観光客にあわら温泉を知ってもらう場となることを目指す。

実現に向けた検討ステップ

温泉街の魅力醸成に向けて「文化体験」「文化情報発信」の要素は不可欠なものである。同時に、展示や情報発信、案内などには、専門的な編集や更新が伴うことで、価値がしっかりと伝わる形となる。

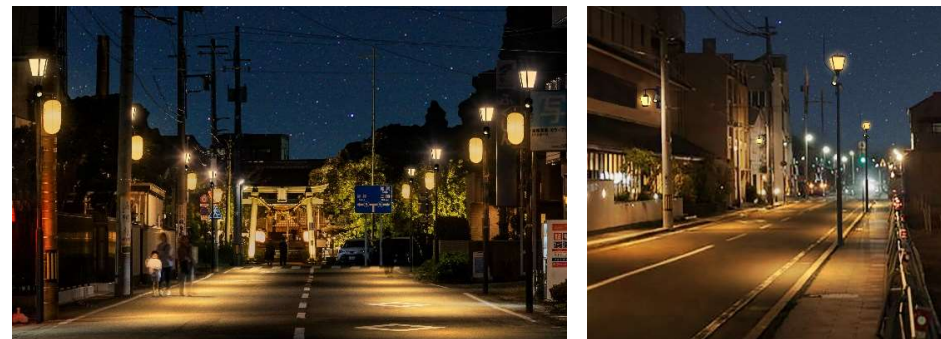
このため、まずは、福井に根差した文化発信要素の整理や温泉街での効果的な生かし方など文化観光の推進方法を具体化する検討から着手していく。

6. あわら温泉の目指す将来像

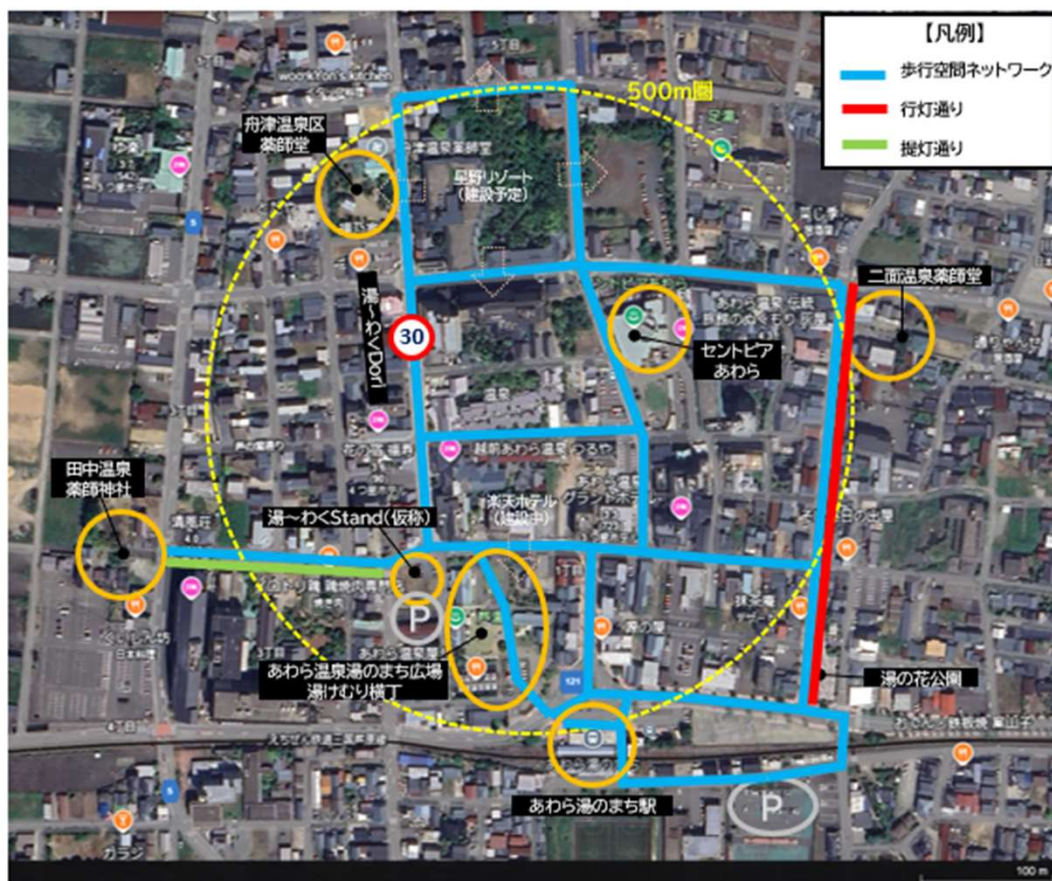
(2) 回遊を支える交通動線

- あわら湯のまち駅から湯〜わくDori間は、湯のまち広場内の快適な歩行者専用空間を形成する。
- 下記エリア図の歩行空間ネットワーク路線では、歩行空間の安全性や景観の向上を図り、夜間景観に資する照明設備を設置するなど、順次歩行者目線での充実を図る。また、接道する民間投資との連動を図り、昼夜の回遊動線を創出する。
- 道路空間再編の方向性としては、車道空間を最低限の幅員として歩行空間をできるだけ広く確保するとともに、夜間景観に資する照明整備や自転車の車道左側通行を促す路面表示等を施すなど、人中心の道路空間とする。
- 道路空間整備と併せて全体サインの整備を進める。

▼整備イメージ



▼あわら温泉 歩行空間ネットワークの整備イメージ



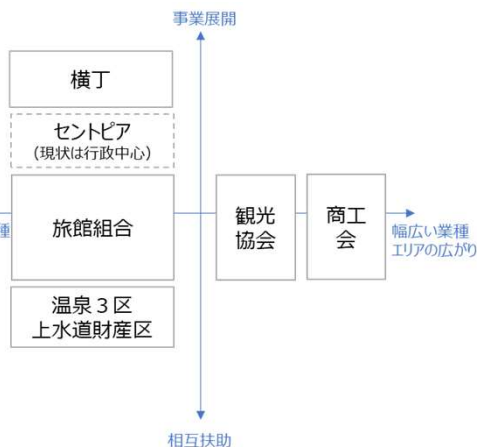
6. あわら温泉の目指す将来像

(3) 持続的な観光地経営の在り方

観光地経営に向けた現状と課題

現状では、旅館・セントピアあわら・芦湯・湯けむり横丁・薬師堂・湯〜わくDoriなどの各施設等が精力的に運営されている。しかし、それぞれの視点での運営にとどまっており、温泉街全体での視点での運動は乏しい状況と言わざるを得ない。

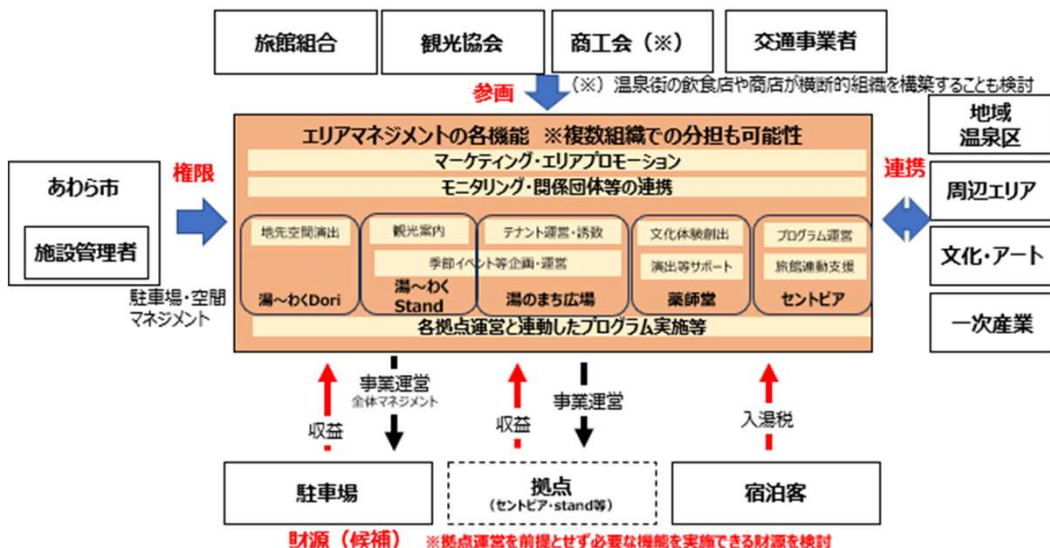
各団体等の活動は、それぞれの組織において比較的積極的に行われており、温泉街でのイベントや回遊のためのコンテンツ創出やPRも進められている。一方で、その担い手は相互扶助が中心の単一業種組織であったり、担うエリアが広範にわたる組織が多いため、それらを結びつける機能は十分でなく、結果として全体的にはそれぞれが単発で進んでいる面がある。



目指す姿とそのために必要な役割

「あわら温泉」が一つのエリアとして価値を高めていくためには、最大の集客力を持つ旅館の力はもちろん、温泉区をはじめとする地域、温泉街を構成する飲食店や物販店・湯けむり横丁などの店舗、新しい湯のまち文化の創出源、それぞれの力が統合される必要がある。

こうした力が統合されて対外的には一つのブランドイメージが醸成されつつ、観光地としての魅力向上だけでなく、働き手や暮らし手も含めた幅広い視点で関わりを生み出しながら観光まちづくりを推進することが出来る仕組みを構築することが重要である。加えて、各施設が単体では克服することが難しい閑散期の対策を行い、需要を平準化することを通じてより安定的な産業構造を構築することも、エリア一体で取り組むからこそ可能となる役割である。



将来の組織イメージと検討の進め方

みらいプロジェクトによる温泉街での仕掛けとあわせ、各組織の役割分担や観光地経営を担う新たな機能の具体化や既存の組織の発展も含めた担い手組織の在り方等について検討していく。エリアマネジメント組織の検討・組成においては、つくることが目的とならないように、どんな役割を地域で果たすために必要か、その役割を果たす既存組織との連携・役割分担や、その中でどのような事業を行っているのか、その財源はどのようなものか、継続性はあるかなどを総合的に検討する。その上で、必要な場合に組織の組成を行うというステップを踏む。今後のプロジェクト推進において、エリア視点で求められる役割についてあわら湯のまちみらいプロジェクトデザイン会議等が必要な役割の一部を担いながら進め、この中で必要な組織の在り方について検討・調整を重ねていく。



あわら温泉の目指す将来像に向けて、その実現を目指す組織と財源を一体で形作っていく必要があるが、3～5年程度の期間をかけながら具体的な役割や組織・財源の在り方を構築していく必要がある。当面の間は、今後のプロジェクト推進において、エリア視点で求められる役割についてデザイン会議等が必要な役割の一部を担いながら進め、この中で必要な組織の在り方について検討・調整を重ねていく。またこの中で、財源として入湯税の活用や引き上げの必要性、入湯税の用途に関する評価の枠組み等について、旅館関係者と十分な協議を重ねていく。

段階	みらいPJ	必要な仕掛け	エリアマネジメントに求められる役割
基盤構築	社会実験	将来目指すシーンの創出に向けた各種の検証を進め、結果を関係者と共有する	<ul style="list-style-type: none"> 事業性検証 プロジェクト情報の発信
	(初期) 事業創出	連動性を生み出す事業を埋め込むこれを支えるインフラ投資 (新・湯のまち広場や夜間景観等) を進める	<ul style="list-style-type: none"> 新・湯のまち広場に合致する事業組成 & 事業者誘致 各事業者の地先活用に向けた働きかけ
創出	事業環境向上	湯のまち広場・湯〜わくDoriなどの箇所で関係者・事業者が連携して魅力を高める提案を行う 需要の平準化に向けた企画を進める	<ul style="list-style-type: none"> 公共空間のデザインコントロール 活用の仕組みづくり 横断的な取組が行いやすい枠組みづくり
	地域プログラム創出	歴史・文化を象徴する薬師堂や地域の総湯・セントピアの魅力化	<ul style="list-style-type: none"> 事業参加者の増大に向けた働きかけ エリア全体の企画コーディネート 閑散期対策の企画・運営
運営・管理	歴史・文化の発信	各季節での仕掛け メディアへの働きかけを含むエリアPR 望まない投資を抑制する枠組みの検討	<ul style="list-style-type: none"> イベント運営や関係団体との連携 観光情報発信 継続したモニタリング 駐車場など全体運営
	プロモーション トータルマネジメント		<ul style="list-style-type: none"> 当初、専門家との共同が必要と想定される項目

7. 実施スケジュール

(1) 整備の方針

段階的な実現を目指す考え方

ビジョンに掲げる「世界に愛されるまち“AWARA”」を実現に向けては、「6. あわら温泉の目指す将来像」に示す将来像を官民で実現し、何度も行き来したくなる拠点としての温泉街および市内各エリアの魅力強化と連携を重ねていく必要がある。ただし、これを短期間にすべて一気に実現することは財政負担や民間の事業環境、また持続可能な維持管理の面から、現実的でない。

○当初3年間の重点事業

当初3年間（2026年度から2028年度）においては、以下を重点として事業を推進する。

◆「まちに行く理由」をつくる

あわら温泉が「湯のまち」として徐々に変化していくための出発点として、中核となる「湯のまち広場の再整備」および「広場内の各施設との一体感の強化」を進める。あわせて、温泉街全体との結節点となる「湯〜わくStandの整備」、夕方から夜間にかけての「よるもうで」の仕掛け、「エアリアルノベーション」に向けたはじまりの事業を進め、温泉街への回遊を促す。

◆「絵になる風景」を生み出す

あわら温泉の名前を聴けば誰しも思い浮かべるような顔となる景観を生み出すため、まずは「芦湯」と「アメリカフウ並木」を中心に据え、絵になる風景を実現する。

◆持続可能な運営の仕組み

新たな魅力とセットになる戦略的な運営や維持管理負担の増大に対応できるよう、温泉街一体での運営体制や入湯税の見直し（使途や金額等）を含めた持続可能な財源について検討を進め、観光地経営の骨格づくりを進める。

○5～10年かけて実現するステップ

こうした動きを通じ、官民で湯のまち文化の醸成に向けた起点となる動きを生み出すことで、事業環境を高めながら、官民が連携し温泉街一体での取り組みを進める。

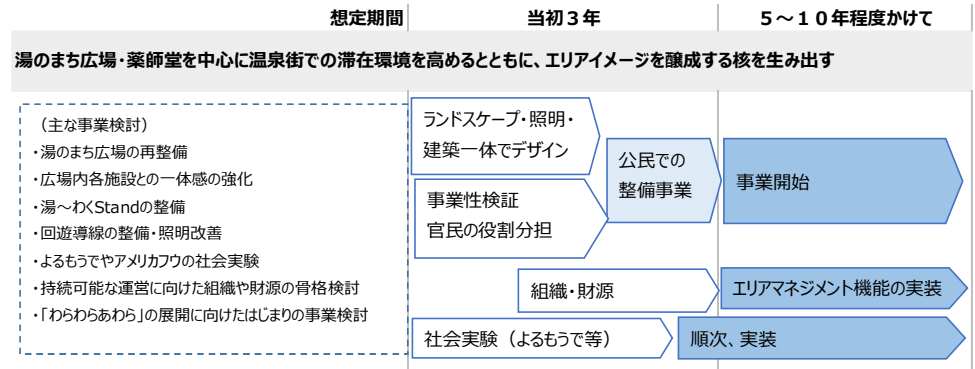
事業環境や温泉街一体での取組みの深まりを確認しながら、新規の宿泊施設をはじめ更なる民間投資が実現するタイミングと足並みを揃え、あわら温泉を象徴する歴史・文化を体現する場を生み出し、福井が誇る温泉地となる（4.（2）Ⅲ）ための更なる事業を進める。具体的には、

- ◆セントピアあわらの在り方、文化回廊や伝統芸能館など歴史・文化を体現する文化拠点の実現
- ◆あわら湯のまち駅前ロータリーの在り方、温泉街全体での駐車場による全体回遊の更なる強化を目指す。

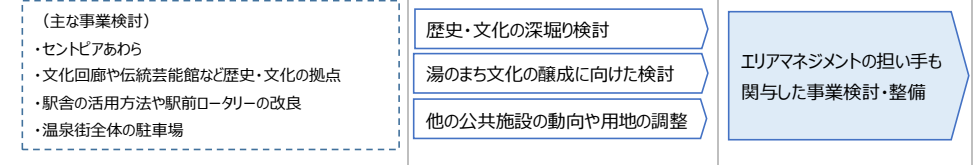
【段階的な事業推進の考え方】

温泉街での回遊をはじめ、湯のまちでの過ごし方を変え、新たなエリアイメージを醸成していくには、起爆剤となる仕掛けとともに、徐々に起こる変化に対して働きかけを継続する基盤を構築していくことも必要となる。このため、当初3年間では、起爆剤として「まちに行く理由をつくる」「絵になる風景を生み出す」とともに、「持続可能な運営の仕組み」の検討に着手する。

その上で、5～10年を見通し、新規施設の進出等の動向も見極めながら、あわら温泉を象徴する歴史・文化を体現する場を生み出し、福井が誇る温泉地となるための更なる事業を進める。



上記の取り組みを通じて事業環境や温泉街一体での取組みの深まりを確認しながら、新規の宿泊施設をはじめ更なる民間投資が実現するタイミングと足並みを揃えて更なる検討



7. 実施スケジュール

(2) 当初3年の整備スケジュール

		令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度～
あわら温泉街のまち広場	広場	測量 広場基本設計	広場実施設計	広場工事	
	建築	外足湯社会実装	戸湯拡張実施設計 ロマン館リノベ実施設計	戸湯拡張工事 ロマン館リノベ工事	
湯～わくStand (仮称)	全体	用地調査	用地取得		
	建築	建築基本設計	土質調査 建築実施設計	建築工事	
	外構・駐車場	測量 外構基本設計	外構実施設計	外構および照明工事	
あわら湯のまち駅前1-1				照明設計 照明工事	
舟津温泉公園 (舟津温泉区染井堂)				公園設計 公園工事	
三菜餅サイト777	社会実装	照明実装			
アサヒ777基本				照明設計 照明工事	
市道 (原明・遠路)	市内協議 (建設課)	照明・道路設計	照明・道路工事		
県道 (戸原湯町停車場等)	協議・要望		設計	工事	
ソフト事業	全体・アクションプラン機微 (デザイン会議・機微会議)	全体計画等			
エリアマネジメント	組織・人材・財源機微			設立・運営	
よるもうで (三菜餅サイト777)	イベント開催				

(3) 整備総工費 (想定)

あわら温泉湯のまち広場改修 (休憩・滞在スペース)	2.5億円
あわら温泉湯のまち広場建物改修 (外足湯・伝統芸能館・ロマン館)	1.5億円
湯～わくStand (仮称) 新築	2.3億円
温泉街照明改修・駐車場移設・調査設計費等	3.7億円
概算費用 (3年間)	約10億円

事業費においては、国庫補助 (1/2)、県補助金、過疎債を最大限活用していく。

(4) 取組みを通じて実現を目指す指標

本計画に基づく取組みが成果を生んでいるか、取組みの方向性と合致する客観指標を確認しながら取組みを重ねる。観光に関する取組みの複合的な効果でもあることから、あわら市の観光振興戦略に位置付けられた指標や旅館組合が設定している指標を活用しながら、指標を設定する。

(効果を確認する指標)

RevPAR : 宿泊地として堅調に事業環境が整っているか、単価と稼働をバランスよく確認する
 外国人宿泊者数 : 世界に愛される観点から、外国人宿泊者数の伸びを確認する
 観光地として魅力を感じる市民の割合 : 市民も誇れる場となっているか、地元の意識を確認する
 観光消費額 : 回遊を促すことで地域として消費額の拡大に結びついているか確認する

(取組みの方向性)

(効果を確認する指標)

世界に愛されるまち "AWARA"

- 市民も誇れる各エリアと連携した滞在型温泉地とすることでインバンドを含む内外の需要を喚起

地域の価値そのものを世界に誇る

市民と来街者の豊かな交流が地域独自の価値になる

市民も誇れる滞在型温泉地

- この場所の文化・産業に根差した温泉街の拠点性を強化し、住民・働き手自身が地域の価値を楽しむ
- 市民や近隣都市住民のサードプレイスとしての温泉街 (日常の使いこなし)

各エリアと連携した連泊できる温泉地

- 各エリアの魅力の磨き上げ
- あわら温泉を核とした近隣都市との連携・往来促進
- 地域経済循環の分析と見える化による域内消費の向上

RevPAR※ (旅館組合Rebornプロジェクト)

毎年4%向上 (毎年実績を検証)
 <実績 : 47,780円 (2025年)>
 ※ (客室あたりの収益 : 客室単価×稼働率)

外国人宿泊者数 (市観光振興戦略)
 5万人 (2029年)
 <実績 : 1.1万人 (2025年)>

観光地として魅力を感じる市民の割合 (市民アンケート)
 (観光まちづくりビジョン)
 50% (2035年)
 <実績 : 31.3% (2024年)>

あわら市における観光消費額 (市観光振興戦略)
 323億円 (2029年)
 <実績 : 251億円 (2024年)>